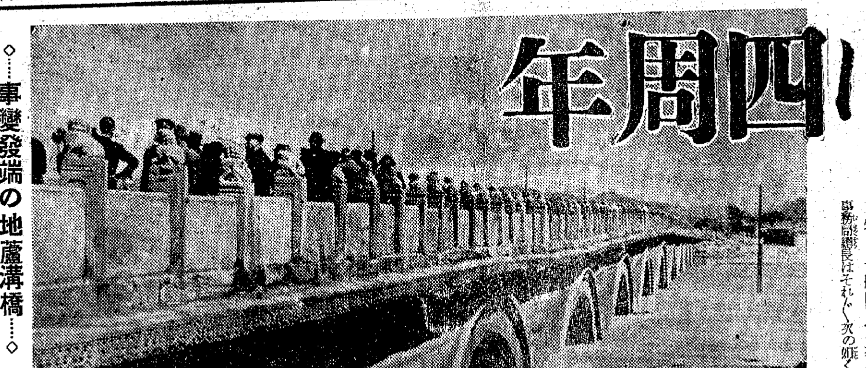
支那事變記念日

京城日報

朝刊　本日四頁

聖戰こゝに四周年


◇……事變發端の地蘆溝橋……◇

擧國大業完遂へ　固し一億の決意
事變處理の國是不動

獨ソ開戰は戰爭を正に世界的規模にまで押し擴げ、國際政情またとみに複雜微妙を極めてゐる折柄、茲に聖戰下四度迎へる意義深い事變記念日の日は來た、過去四ヶ年陸に、海に、空に無敵皇軍の勢威は大陸を壓して餘すところなく敵性第三國の煽動によつて空しき對日抗戰を續けてゐる蔣逆政權も今や單なる一地方政府に墮し去り滅落の一途を辿る慘狀を呈してゐる一方和平建國のスローガンを掲げて成立した汪精衛氏を主班とする南京國民政府は成立以來極めて順調なる進展を辿りこのほど獨伊を始め樞軸諸國の正式承認となり劃期的な飛躍段階をひた走るの觀を呈してゐるのだ、既に南京國民政府の育成强化と重慶蔣逆政權の潰滅こそ事變處理に對する帝國不動の國是として定まり、これを完遂することこそ國家國民に課せられた當面現下の最大の責務と言はなければならない世界情勢の激變に緊々對處すると共に肝腎要の事變處理に對する國民的決意をますます固くし飽くまで聖戰目的の完遂に擧國一致邁進すべく事變記念日にあたり特に一般國民の奮起を促さざるを得ない、なほ事變第四周年記念日に際し南總督、中村朝鮮軍司令官、川岸事務局總長はそれぞれ次の如く時局談を試みるところがあつた

一段の精進を期す
南總督談話

南總督

聖戰始まつて茲に第四回目の記念日を迎へ、擧國々民の意氣を昂揚して長期戰對處の決意を鞏くすることはその意義深大なるを覺ゆるのである

顧み れば四年前の今月今日北支に事端勃發を見たるとき、我方が飽くまで事件の不擴大と局地解決の方針を執つたのに對し、蔣政權はこれを日本の侵略戰なりと宣傳しつゝ敢て故意に全面戰爭への擴大方針をとり、終に今日の如き大事變に發展せしめたのであるが、元來彼の意圖は我が帝國の東亞安定勢力を打倒して東亞覇權を恣にせんとする第三國と結び、その聯合勢力を以て我が國を窮地に陷れんとするにあつたことは明瞭である、又日本の國力が到底長期戰に耐へ得ずして內部崩壞を來すに至るべしとの想定が彼等の謂ゆる策動の基調をなしたものであつた

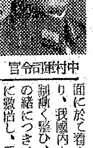
我が 國が歐米の侵略から全東亞の安全を護つて『東洋人の東洋』を建設せんとする、大乘的立場と、蔣政權が歐米の侵略者を誘導利用して東亞の將來を暴露し、一私慾の野心を遂げんとする小乘的立場とは、既に順逆の理が初めより瞭かであつた、また抗日事變が世界情勢必然の動向を播らず、援蔣第三國と日本との實力を誤算したる結果は、過去四年の戰績と時局の推移に順して歷々指摘することが出來るのである、連戰連敗疲勞困憊の極にある重慶偽政權は今日もなほ依然として第三國に縋り抗戰態勢を呼號しつゝあるもその戰力は時と共に益々低下し、民心亦大に離れて前途暗澹たるものあるに反し、我れと提携せる正統國民政府の威信は日に月に增大し、既に之を承認して友好關係に入れるもの十ヶ國を數へ

共同 興亞の聖業は正に飛躍的の前進を爲しつゝあり、他面に於ては援蔣列國中既に或る者は潰え、或る者は傾き、或る者は四圍の事情により支那を顧みる餘裕を失つてゐる、ただ獨り米國のみが遠く洋の彼方より重慶への無益なる輸血を續けつゝあるに過ぎない而も我が帝國は彼等の希望的觀測を裏切つて戰時下既に事變前に數倍するの國力と兵備とを整へ滿を持して大東亞共榮圈建設の既定方針に對する妨害者を邀へ擊たんとするの態勢にあり『天』と『時』はかくて全く我が國に味方し、如何なる長期戰も長期妨害も我等を困らしめ得ずして却つて彼等自らを危亡の運命に導くの歸結を示唆するに至つた

今や 歐洲戰は獨ソ開戰によつて相當の變貌を生じたとはいへ、世界史發展の方向は高邁なる道德と理想とを有し、强靱なる訓練と準備ある國民に依つて領導され、新世界の新秩序が建設さるることは既に明かであつて一點疑ふの餘地がない、ただ何れの場合も先驅者、開拓者の進む道が決して坦々たるものでなく、天が艱難を下してその人、その國民を試錬する過程の存することを吾等は深く銘記せねばならない、わが朝鮮においては事變下にありて一昨年における大旱害の如き大災に遭遇し、また、産業經濟の戰時型への編成替に伴ふ物資、物價問題の如き相當深刻なる影響を民衆生活に與へ來つたに拘らず、却つて之等を好試錬として益々國民精神を昂揚し

官民 一致の組織下に總力を擧げ臣道實踐、職域奉公に邁進しつゝあることは吾人の感激に堪へざる所であつて、この成果が高度國防國家體制の支柱となり一億一心の結束を以て外敵の誤觀を驅倒する重大要素をなせることを自認すべきであるが、事變の殉國者既に十餘萬、その護國の英靈を慰むるの途は一に不退轉の決意を以て國民的大業を完遂するにあり、こゝに事變四周年記念日に當り、轄內官民諸君と共に更に一段の精進を期する所以である

實行あるのみ
中村軍司令官談話


中村軍司令官

聖戰茲に四年赫々たる我戰果愈々中外に輝き、新支那の建設日に月に巨步を進めつゝありと雖も、歐洲動亂は意外に擴大急轉し、支那事變と歐洲動亂は一環して眞に世界戰爭の新段階に突入せんとしつゝある史上空前の危局に際會し、茲に事變四周年記念日を迎ふることゝなつたことは眞に意義深きものがある

今や 時局は愈重大性を帶びつゝある、この意義ある記念日に際會し國民齊しく反省、以て我不動の國策たる事變完遂を根幹に時局を再認識し、更に不拔の信念を固むべきであると思ふ、顧みれば蘆溝橋一發の銃聲より『戰ひ四歳』事變は幾多の段階を經て來たのであるが、征戰の皇軍は陸海空に亘り到る所連戰連勝、又新政權を育成綏撫し新しき建設は各方面に於て着々として具現しつゝあり、我國內も亦客歲以來總力戰體制へ確く堅ひ、國防國家建設正に其の緒につきて國力の伸展は事變前の實備はりつゝあり、所謂戰ひつゝ建設するの實情は宇內に光被しつゝあり、國威隆々として史上空前の姿である

これ 全く至高至大なる御稜威の賜であつて生を皇國に享くる者は內鮮を問はず洽く皇恩の辱きを銘肝し、報恩感謝の念を新たにすると共に、又今は亡き護國の英靈に心からなる感謝の誠を捧げ、尚我が傷病の勇士と遺されたる遺家族に厚き同情を注がねばならぬ、惟ふに過去四個年の戰果が如何に偉大であるかは內外の已に確認する所であるが、今や蔣抗日政權は崩壞、落日の直前に在るに反し、國民政府を中心とする新政權は着々として其の實力を備へ、日滿支の提携愈々固く、最近獨伊初め樞軸八個國の承認を得て事變處理は一大躍進を見るべき機運に在る、然りと雖も事變の前途は尚遼遠で短日月を以て終了することは出來ない

なほ 長期戰と幾多の艱難を覺悟せねばならぬ、今や皇國を繞る國際情勢は頗る微妙複雜且緊迫せる樣相を呈し、我不動の最大國策たる聖戰完遂、東亞新秩序の建設に重大なる關聯性を有するに至り、國防力の强化と戰爭の一段飛躍は今日最も緊切なものはなく、銃後の一致結束による第一線將兵の支援は實に最も緊要なるものあり、即ち聖戰完遂の實は實に銃後に存することは國民一人一人が心から再認識する必要がある、就中半島在住民は動亂渦中に在る歐洲弱小國民の悲慘なる窮狀と、征戰四年何等平時と大差なき『皇國民としての有難さと誇り』とを深く省察し、新しき感激を以て銃後責務の完遂を期せられん事を切望する

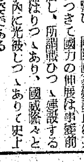
換言 すれば客秋決定せられたる我基本國策である高度國防國家の急完は、今や有事即應の態勢をもつて斷乎即行すべき秋に際會してゐる、徒らに逼迫の浮說流言や國際情勢に右顧左眄することなく聖戰完遂に直往邁進し、默々として國民各々が當面の責務に挺身し一億一心の鐵石をもつて戰爭擔當せねばならぬ、七月七日全國民は擧げて一億一心感謝の誠を英靈に捧ぐるに際し、新しき責務の完遂に對する默々たる實行を誓ひ、これを實行することこそ事變下の國難であり又殉國の英靈に對する最良の供物であると思ふ、國の實力に絕對の信賴と誇とを强く抑持し、皇國の大理想に向つて更に一層搖ぎなき覺悟を固めねばならない

變轉 窮まりなき世界の動亂に對處して眞に賴みとなるのは日本自身の國力のみであるが、その國力こそは一億國民の心構へと實踐から生れるのである、信は力なり、自ら信じ毅然として戰ふ者は常に勝者たり得る、我々は勝たねばならない、勝つためには一億一心、總力確立ちとならねばならない

論議 の時代は遠く去り各人職場の戰場に最善最大の工夫努力を傾注して速に國家の要請に應ずる凡ての態勢を攻進せしめねばならないと信ずる

茲に 興亞の記念日を迎へ勳功永遠に輝く護國の英靈に對し景仰追慕の情禁ずる能はざるものがある、我等は飽くまでもこの聖戰の完遂を誓ふと共に全鮮二千四百萬愛國半島官民諸君の一大決心と奮發とを切に々望んで止まないものである

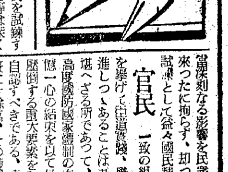
一大決心を望む
川岸事務局總長談話


川岸總長

我等 靜かに力戰奮鬪せる四年の跡を省みると共に、默々として巖然尚も先制の構へにある帝

聖戰茲に四周年、皇軍の赫々たる作戰々果は其の雄大なる規模に於て到底歐洲大戰に比すべくもなく而もそれらは有形的のものゝみでなく新秩序建設に對する物心兩面の成果は更に大なるものがある

此の 四年の間日本は大なる戰爭と大なる建設とを同時に進めて來たのであつて、國力は大部分蓄積され、實に數十年の飛躍を見たのである、今や蔣逆は瀕死第三國の援助を唯一の賴みとして奈落の街に氣息奄々たるとき、汪氏の新國民政府は格段に成長し世界各國の之を承認するもの既に十指を屈するに至つた



社說
聖戰四周年を迎ふ

けふ聖戰第四周年の記念日を迎ふ。五年前のけふ、蘆溝橋事件に端を發した當時の現地皇軍將兵の言語に絕した勞苦を偲ぶ時、國民の感懷は新たなるものがあると共に、切々として胸に迫るものあるを如何ともすることは出來ない。

滿四年の間に敵の損害三百八十萬、頑迷蔣逆は世界戰史にみざるかゝる大犧牲に、加ふるに國をあげて焦土と化しつゝもなほ抗戰の愚を繰返してゐる。

この間、大御稜威の下、皇軍百萬の精銳は、有史以來大規模なる作戰を展開、陸、海軍一體となつて連戰連勝、赫々たる戰果を擧揚し、尚且つ綽々たる餘裕を見せつゝあるは國民の感謝に堪へないところである。

事變勃發以來、皇軍の尊き犧牲十萬九千二百五十柱に對しては、たゞたゞ感謝の言葉だにない。われら銃後國民は、大東亞建設のため大陸の戰野を染めたるこの尊き碧血の犧牲に應ふべく、一心一體高度國防國家の完成への力强き實踐を誓ふほかはない。

今や世界は一大變革期に突入し、帝國の前途亦多難を加ふ。かゝる秋に東亞の盟主日本の地位は今や確固不動、けふこの記念日を迎へて國民は世界無比の陸海空軍の實力、滿四年自給自足、自力を以つて世界的規模の大作戰を遂行しながら尚餘裕ある國力を信じ、以つて聖戰目的の完遂に邁進しなければならない。

燦たりこの日！嚴たり決意！

榮えの生存者行賞
輝く七田、川岸、牛嶋各部隊
殊勳甲は二百勇士

【東京電話】畏き邊りでは今次聖戰で赫々たる武勳を樹てつひに興亞の礎石と化した勇士に對し昭和十三年四月以來陸軍關係二十八回海軍關係十九回計四十七回にわたり論功行賞の御沙汰あらせられたが、今回畏くも生存者に對し聖慮の御沙汰あらせられ、意義深き事變第四周年記念日の七日午前零時第一回支那事變生存者論功行賞として內閣賞勳局ならびに陸海軍兩省より發表された、この度の光榮に浴したものは陸軍關係においては、事變勃發直後北支保定攻略戰に參加し、輝く武功を樹てた七田、川岸、牛嶋（貫）部隊ならびに山西攻略戰に勇名を轟かせ、ついで武漢三鎭攻略戰に活躍した吉住部隊に屬する勇士（將官を除く）で、軍人のほか軍屬にも及んでをり、右のうち武勳拔群にして金鵄勳章授賜の榮に輝くものは八千九名でうち功二、中綬、岩切秀大佐以下百九十六名に對しては特に拔群の武勳を嘉せられて殊勳甲の御沙汰あらせられ、海軍においては、すでに現役を離れたもの、召集解除者および論功行賞審査後死歿したものを主としてその員數約一萬七千名に及び金鵄勳章授賜者四十六名で、うち成績拔群なるものとして優賞せられたものは渡洋爆擊の名手として感狀を授與せられること三回擊墜爆破機數廿九機の記錄を有する小谷雄二海軍少佐、同じく感狀授與二回、擊墜爆破機數十七機に及ぶ池田魁海軍大尉ならびに、年齒わづかに二十二で全支にわたる航空作戰に從事特に蘭州、漢口、南昌爆擊行に偉勳を樹てた品田亨藏元海軍二等航空兵曹の三名である

陸軍省發表

【東京電話】支那事變生存者論功行賞第一回發表に際し陸軍省より七日左の如く發表された

陸軍省發表　今次聖戰に參加し護國の神と化した英靈に對してはすでにそれぞれ畏き恩賞を賜り感激の至りに堪へない次第であるが、今回畏くも生存者のうへにも論功行賞の御沙汰あらせられ、事變勃發第四周年記念日の意義深き今日その第一回が發表せられた、この光榮ある恩典に浴したものは七田、川岸、牛嶋（貫）部隊および吉住部隊に屬し事變地において勇戰奮鬪、赫々たる武勳を樹てた勇士（將官を除く）で、軍人のほか軍屬にも及んでゐる、各自に對する賞賜は從來の如く官報に掲載せられることなく『支那事變論功行賞通報』といふ印刷物を調製し、陸軍部內市區町村役場（朝鮮は府、郡役所、邑面役場）その他關係方面にそれぞれ送付してあるから、發表の日より若干日ののちには到達するはずにつき、前記適宜の個所について承知せられたく、なほ賞賜品は後日軍隊區隊區司令部、または市、區、町、村役場などを經て交付せらるゝはずであるが、除隊後居住地を變更し、その變更屆を差出してゐないものに對しては、その交付がはなはだしく遲延し、または交付不能になる場合が生ずるから、速かに功績上申部隊（通常本人の事變勤務に從事した最後の部隊）へその手續をして置く必要がある

陸軍部隊殊勳甲

功三小綬少佐 藤原 忠次（山口）
同 大尉 石室 惠一（鹿兒島）
同 同 後藤 學（大分）
功四光少尉 田上 重夫（熊本）
同 同 羽田野義久（大分）
同 同 長木 道政（同）
功五旭七曹長 和田 愛藏（鹿兒島）
同 同 川旗 保（宮崎）
功七旭八伍長 假屋崎義雄（鹿兒島）
功七旭八元上等兵 神谷壽久馬（福岡）
功五旭七伍長 村永吉太郎（廣島）
功五光曹長 上野 政利（大分）
功五旭七曹長 竹下 忠實（大分）
功四小綬大尉 小屋迫 要（熊本）
功五旭七中尉 藤元 一昇（大分）
功四光中尉 岩崎 濤一（山口）
功五旭七曹長 河野 義生（大分）
功五旭七曹長 伊瀨 親介（島根）
功五光准尉 古賀 榮藏（佐賀）
功六旭七元軍曹 江藤 博（山口）
功六旭八准尉 小川 勝藏（長崎）
功五光准尉 長谷川節夫（島根）
功五旭七曹長 谷弘 晋一（山口）
功五旭七軍曹 木村 順三（廣島）
功五旭七同 山本 務（同）
功四小綬大尉 佐伯民三郎（鳥取）
功五光准尉 樂 政造（福岡）
功六旭七元伍長 井上 直人（同）
功六旭八伍長 高田 俊雄（廣島）
功七旭八伍長 板拝 伊吉（島根）
功二中綬大佐 岩切 秀（鹿兒島）
功四旭五中尉 川東 守敏（同）
功四旭五伍長 北田 光雄（大分）
功六旭七伍長 島本 弘（廣島）
功三中佐 中野 謙一（佐賀）
功四旭五中尉 賀谷 竹雄（山口）
功四小綬少佐 坂 武穗（山口）
功四光中尉 武田 清（山口）
功五旭五大尉 坂上 止治（鹿兒島）
功五旭七中尉 土谷 保彦（山形）
功五旭七曹長 上谷 巡次（和歌山）
功五旭七軍曹 高瀨 良一（和歌山）
功五光准尉 大上 善次（兵庫）
功五旭七軍曹 山內富士雄（兵庫）
功六旭七伍長 小原 得郎（岩手）
同 同 東 俊太郎（大阪）
同 同 松井 正一（和歌山）
同 上等兵 日野 喜高（和歌山）
同 旭八伍長 今木 爲一（大阪）
同 同 伍長 山中庄太郎（大阪）
同 旭八伍長 小澤 正一（長野）
功四小綬少佐 渡邊廿之助（福島）
功四光中尉 淸水卯之助（兵庫）
功四旭六中尉 福田 謙一（長野）
功三小綬少佐 中山 亮輔（高知）
功四旭六中尉 森 正（愛媛）
功六旭七曹長 鈴木 修造（大阪）
功六旭七伍長 大橋 國敏（鳥取）
功五旭七曹長 白神 徹夫（岡山）
功七旭八上等兵 高谷 幹雄（福岡）
功七旭八伍長 岡本 壽志（岡山）
功七旭八伍長 高島 一市（兵庫）
功七旭八上等兵 平井 巖（兵庫）
同 伍長 中溝 祝一（岡山）
同 伍長 山口 福雄（靜岡）
同 伍長 北川 正明（滋賀）
功六旭八准尉 大東嘉三郎（三重）
功六旭七軍曹 大津 健治（兵庫）
功五旭七大尉 竹森 嘉則（大阪）
功五軍曹 石黑 幸一（大阪）
功七旭七伍長 上田 政夫（大阪）
同 同 高橋 重一（兵庫）
同 曹長 楠部 一男（和歌山）
功六旭八伍長 田井 正（香川）
功六旭八上等兵 渡利 一男（兵庫）
功五旭七少尉 魚住 敏雄（兵庫）
功五旭七曹長 宮本 吉夫（岡山）

海軍論功行賞
優賞三名殊勳四十六名

【東京電話】支那事變海軍論功行賞第一回發表（昭和十五年四月二十九日以降）今回論功行賞の恩典に浴したものは、すでに現役を離れたもの、召集解除者および論功行賞審査後死歿したものを主とし、その員數およそ一萬七千で、うち殊勳者四十六名、優賞三名が含まれてゐる

優賞

功三旭四少佐 小谷 雄二（兵庫）
功四旭五大尉 池田 魁（鹿兒島）
功六旭七元二等航空兵曹 品田 亨藏（群馬）

殊勳者中將校左の如し

功四旭四大佐 志波 國彬（長崎）
功四旭四中佐 淺野楠太郎（大阪）
功四旭四少佐 山內 武男（愛知）
功四旭四機關少佐 大田 淸治（富山）
功四旭四大尉 名村 利正（富山）
功四旭五大尉 吉村 治（熊本）
功五旭六中尉 桑島 吉三（神奈川）
功五光特務少尉 中村 貞運（鹿兒島）

一般行賞

功四大佐 室谷 忠一（和歌山）
功四旭四少佐 山崎來代臣（鹿兒島）
功四旭四少佐 橫山 忠男（廣島）
功五少佐 石田庄右衞門（和歌山）
功四中綬大佐 橋本 勝光（福岡）
功四旭四少佐 黑田 直樹（岡山）
功四小綬少佐 宇宿 達二（鹿兒島）
功四中綬中佐 堀 薪（石川）
功四小綬少佐 江口 大郎（佐賀）
功四中綬大佐 木越 二郎（東京）
功四中綬中佐 山根 五郎（山口）
功四旭四少佐 宮脇龍治郎（岡山）
功四小綬少佐 磯見 克己（同）
功四旭四少佐 野添 勳（鹿兒島）
功三小綬少佐 山縣 英夫（和歌山）
功四中綬大佐 加藤 巖（大阪）
功四小綬少佐 田原 親雄（大分）
功四中綬大佐 南部 襄（和歌山）
功四旭三中佐 井田 德（福岡）
功四旭六軍曹 大窪 直吉（同）
同 曹長 小川 興一（同）
同 同 杉本 重作（同）
同 同 淸水 耕作（同）
同 同 宮本 正元（同）
功五旭七軍曹 中竹 太郎（同）
功五旭七伍長 黑田守太郎（同）
同 同 小川 外治（同）
同 同 淺田 利光（同）
同 伍長 富居 庄作（富山）
同 軍曹 和仁 嘉三（岐阜）
同 軍曹 浦 勇次（同）
同 同 砂田 文吉（同）
功七旭七伍長 黑田 榮一（同）
功七旭八元伍長 鉢呂 兼治（同）
同 旭八上等兵 山崎吉次郎（同）
同 軍曹 木下 秀一（同）
功七旭八上等兵 酒井 喜作（同）
功五旭七軍曹 甲田 正作（富山）
功四旭五大尉 神山 新七（愛媛）
功七旭八准尉 船越 篤（北海道）
功六旭八准尉 吉田 實（愛媛）
同 曹長 小林 正二（長野）
同 同 寺尾 武彦（愛媛）
同 同 淺井 行男（愛媛）
同 軍曹 兵頭 亘（愛媛）
同 軍曹 東 勝美（和歌山）
功六旭七准尉 飛川 直治（福井）
功五光准尉 堀內 喜作（同）
功七旭七軍曹 山本 武（同）
同 曹長 村井末太郎（同）
同 伍長 埼村 唯夫（同）
同 伍長 西岡 太郎（同）
同 同 水上 繁雄（同）
同 軍曹 西田彥十郎（同）
同 伍長 小川 玉吉（同）
同 曹長 中道 久（同）
同 軍曹 坂本重三郎（同）
同 伍長 土本 一郎（同）
同 同 近藤 保（同）
同 伍長 松田 守雄（同）
功七旭八伍長 本 喜一（同）
功五旭少尉 大瀨 邦二（同）
功五旭大尉 橫田 俊平（兵庫）
功六旭七中尉 高居英一郎（滋賀）
同 同 北川 誠三（同）
功五旭少尉 淸水 銀（同）
功五旭七少尉 西坂作次郎（富山）
同 同 齋藤 光藏（滋賀）
功七旭七伍長 小城孝太郎（福井）
功七旭七軍曹 木戶 淸（同）
功六旭七曹長 小森 春藏（滋賀）
功七旭七軍曹 立﨑 一三（滋賀）
同 伍長 橫田 藤太（滋賀）
同 伍長 山本 定正（福井）
同 上等兵 赤井 文義（滋賀）
同 伍長 大塚 春五（岐阜）
同 上等兵 今川 重一（岐阜）
同 伍長 伊富貴安吉（滋賀）
同 元伍長 渡邊 彌（岐阜）
功七旭八伍長 永木 興一（福井）
同 同 勢馬 三郎（同）
功六旭八中尉 中島 金二（富山）
功七旭七軍曹 濱風 利雄（同）
同 同 高田 吉次（石川）
功六旭八伍長 渡邊 喜一（富山）
同 上等兵 靑山 茂（三重）
同 中尉 片山正太郎（富山）
功四旭五中尉 關野松次郎（同）
同 旭六中尉 尾川四郎作（同）
功四旭四少佐 瀨良 濃（宮崎）
功四小綬少佐 高木 茂（香川）
功四小綬少佐 古閑 武夫（熊本）
功四小綬少佐 大久保利夫（福岡）
功四中綬大佐 小畑 金城（和歌山）
功四旭四少佐 芳賀 榮政（福岡）
功四小綬少佐 比土平隆男（廣島）
功四旭四少佐 片山 正員（三重）
功三中綬大佐 腹岡 武雄（東京）
功四中綬中佐 入見 重員（三重）
功四中佐 藤野 孫平（石川）
功四小綬少佐 上野 湧（岐阜）
功四旭四少佐 松山 淺（石川）
功四少佐 藤村 義明（山口）
功三中綬中佐 時澤 直義（石川）
功四旭三中佐 瀨川 吉雄（同）
功三中綬大佐 田村北之助（三重）
功四少佐 武田 丈夫（愛知）
功四少佐 檜皮 研三（福井）
功四旭四少佐 中村 勇（秋田）
功四旭五少佐 瀧藤 廣（同）
功四旭五少佐 福岡 淸（秋田）
功四旭六少佐 六戶部間順（同）
功四旭六少佐 高野 東雲（新潟）
功四少佐 鈴木 重楠（山口）
功四大佐 山田 信一（同）
功四旭四少佐 久野 周重（愛知）
功四旭三中佐 中川紀十郎（新潟）
功四中綬中佐 黑須源之助（茨城）
功四旭三大佐 川久保鎭馬（東京）
功三小綬少佐 吉松 秀孝（高知）
功三小綬少佐 木村 正（熊本）
功四小綬少佐 岩隈喜三郎（福岡）
功四小綬少佐 小林 德藏（新潟）

天恩に應へん
藤田恩賞課長謹話

【東京電話】支那事變生存者論功行賞第一回發表に際して陸軍恩賞課長藤田大佐は威儀を正し『事變記念日の意義深きけふ、永年にわたり支那大陸に苦鬪した將兵に對し論賞を賜ふ、恐懼感激のほかはありません』と謹話

今回恩賞に浴した光榮者は七田（川岸、牛嶋（貫））吉住の三部隊中他の部隊に轉出したものは今回の恩賞に除かれてゐる。恩賞の光榮に浴するものは擧動を愼しみ、聊かでも世間から非難されるが如きことがあつてはならぬ、さらに緊張を致して一段と新たにして奉公の誠を致し、天恩の萬分の一に應へ奉る覺悟でなければならぬ、賞賜品は一日も速かに交付することになつてゐるが、除隊後居住地を變更したりしてゐるものは功績上申部隊（事變勤務に從事した最後の部隊）へ居住變更屆を至急手續すべきである

朝鮮關係

功七旭八上等兵　白 承 吉（慶南）

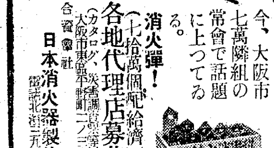
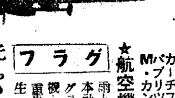
陸軍大臣謹話

本日今次支那事變における生存者の論功行賞をはじめて發表せられ生還多數の將兵等に賜りましたことは眞に恐懼感激に堪へない次第であります、戰歿者に對する行賞はすでに昭和十三年四月以來陸海軍併せて四十餘回にわたつて發表せられ、その光榮はもとより遺族の名譽またこれに過ぐるものなく、國民はただ忠魂に心からなる敬仰感謝の至情を捧げてゐる處であります

身を 完うして戰陣より歸りましたものは心中ひそかに舊戰友の斃れたるにかゝはらず生きながらへたことを愧ぢ行賞の光榮を賜ひただただ恐懼に堪へませぬ、かく優渥なる恩典を賜りましたにつき今更申すも畏き次第でございますが日淸戰役後に明治大帝がまづ第一に戰歿せる將兵のことに大御心をそゝがせ給ひ『凱旋する者は賞を受くるに差あり然れども死せる者は與からず朕太だ之を憾む』と仰せられ宮城內に振天府を御造營遊ばされ將兵の肖像と姓名とを錄し賜せられ

その 忠烈を後世に御顯揚あらせられた御仁慈を思ひ奉り、また建武中興の論功行賞に楠正成がまづ菊池武時の勳功を奏じて一命を君國に捧げ、九州勤皇の先驅として粉骨したことを思ひおこし苟くも今日この殊遇を蒙るものは、特に思ひを戰歿者にいたし皇軍の眞義と武人の氣節とによつて立ち恭儉己を持し常に擧措を愼みていささかたりとも世の指彈の種となるが如きことあつてはならぬと存じます

しか も現に有史以來の非常時局を克服して新秩序を建立すべき興亞聖戰遂行中にあり、事變いまだ終熄に至らざるにさきだち特に生存者の論功行賞を御沙汰あらせられ、ここに行賞の恩典に浴せしめられ殊遇を賜りましたのはたゞたゞ畏き極みでございます、將兵等一同いよいよ奉公の誠を致して天恩に應へ奉り忠靈に恥ぢざるの覺悟を固めんことを期する次第であります

日本號

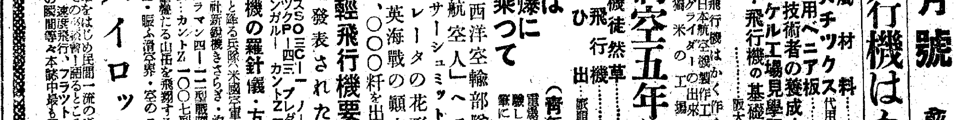
今、大阪市七萬隣組の常會で話題に上つてゐる。

消火彈！（七拾萬個配給濟）

各地代理店募集

（カタログ、代理店規定等送呈）大阪市東區平野町二ノ三六

合資會社 日本消火器製作所　電話北濱二五九三・二四〇〇番



航空朝日

七月號　愈々發賣！

特輯 飛行機はかく作られる

★金屬材料……工博・石田四郎
★プラスチックス……代用品協會・鈴木道次
★飛行機用ベニア板……R・B・アンダーソン
★獨航空技術者の養成……W・ヘロルド
★ハインケル工場見學記
★特別講座・飛行機の基礎計畫から竣工まで……阪大助教授・三木鐵夫

特輯寫眞　飛行機はかく作られる　日本航空機製作工場見學　グライダーの出來るまで　米國工場風景

特輯 制空五年（聖戰四年間の空軍快捷錄）

★飛行機徒然草……工博・宮城音五郎
★低速飛行機……工博・太田友衞
★思ひ出……阪大工博・藤井隆二郎

初夏は重爆に乘つて（青年學校長の手記）　重爆擊機に同乘し初飛行を體驗した都下青年學校長五氏の筆になる貴重な體驗飛行記！

歐米の空の話題
大西洋空輸部隊……茂崎一郎
「航空人」ヘス……
メッサーシュミット米國へ出現……
クレータの花形……土橋三郎
獨英海戰の顚末
一、〇〇〇粁を出した男……空野閑人

各國輕飛行機要目一覽表（圖表）
★最近發表された飛行機の紹介　カーチスSO三C—一　ノースロップN—三PB　ブリュースター　ブレダ八八　PS・SM・六九　SJ　M・カンガルー　カントZ—一〇〇七B—SM
★航空機の羅針儀・方向探知器（特許時報）

フラグ　雨と降る兵隊（米國空軍パラシュート部隊の訓練）　本社新鋭機きさらぎ・汐風と寺田航研式TK三型　グラマン四一一二型戰鬪機・NA・XP五一戰鬪機・カントZ一〇〇七B・S重爆……他二機　重畳たる山岳を飛翔する我が陸鷲・中國に空軍誕生・眠ふ消空界・空のニュース

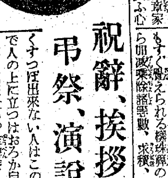
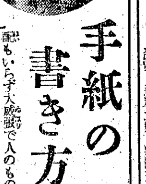
元老パイロット座談會　海軍をはじめ民間一流の老練テスト・パイロットを集めての座談會！語るところ、身を賭しての試驗飛行、高度・速度飛行、フラット・スピンの記錄、血も凍る危險の瞬間等々本誌中最も興味を呼ぶ記事であらう！

定價五十錢（送料三錢）
發行　朝日新聞社

不動產時報

土地・家屋運營の指針

現下の住宅對策に就て……經濟學博士 高木友三郎
國防經濟と新體制の將來……幸島禮吉
土地は如何に活用すべきか　不動產經濟研究所長 玉塚締伍
○貸家經營の種々相　○アパートの種々相　○浴室の話……太田三郎
宅地建物等價格統制令について官民合同座談會　商工省・物價局・土地建物會社・不動產業者各方面代表
戰爭・文化・建築……工學博士 藤島亥治郎
○大戰下英國の戰時建物立法　○大地に想ふ
統制下の貸家經營
◇地代家賃統制令の適用について　◇住宅營團法要綱（建物分讓・賃貸其他）　◇國民厚生金庫法による轉廢業者の土地建物評價基準
隨筆　不動產の判例　新刊案內　要旨大集
七月號　一日發賣　價五十錢　送料二錢
東京・麴町區五ノ六　不動產經濟研究所　振替東京一二二六六一番

手紙の書き方

學校を卒業しても滿足な手紙も書けぬとはヨク聞く噂で、ある實に手紙下手程恥な事は無い。自分が思つてゐる事も十分先方に表はせず、逆に義理を缺いたり先方の感情を害したりして思はぬ恥をかく事があり今度東京市杉並區下高井戶一ノ二四東京書院で發行された文學士藤合先生著『實用新案手紙百科辭典』と云ふ本は、是等の缺陷をおぎなつて誰でもスグに役立つて思ひのまゝにスラスラと書けると云ふ非常な重寶な本で之一冊あれば恥かしくない手紙文章家になれ他人に手紙を書いて貰ふ心配もいらず大威張りで人のものも書ける樣になる　內容は「交際文」「商業文」「慶賀」「祝賀」「弔文」「照會」「催促」「詫文」「吊慰文」「中元」「女交際文」「就職の手紙」「履歷書の書方」其他八十章にわたり解り易く一々實例について書いてあります　同書は僅か一圓で特價してゐる由　東京書院へハガキで申込めば代金引換で急送する筈である

珠算の覺え方

某大實業家の述懷に『所謂讀み書き算盤と云ふが、算盤が下手なので採用せぬ事が屢々ある』と。全く算盤の下手は活社會の岐れなれば一生の損許りでなく他人の前で恥をかく事がある。珠算は簡單な方法を識つて練習すると見ながらにして甲種商業學校卒業程度の珠算ならどんな難しい計算でも至極簡單に最も早くしかも正確に計上出來るといふので評判がある東京市杉並區下高井戶一ノ二四東京書院から發賣された「速成熟達　珠算の覺え方」を見るとどんな素人でもすぐ覺えられる。同書は特價一圓で前記東京書院へハガキで申込むと代金は着本拂ひで送本してくれます

祝辭、挨拶　弔祭、演說

式場などで突然の挨拶や祝辭を求められ辭退するのは大人の恥だ。社會に出ると必要になつて來てゐる。然るに自分の意見一つとして發表出來ず實に汗顏の至りである。

くすつぼ出來ない人はこの世の中で人の上に立つはおろか自分を保つ事も出來ない。雄辯家となるにはむづかしいかといふに、左ではない限り誰でも練習さへすれば明日からでも上手になれる。今度東京市杉並區下高井戶一ノ二四、東京書院より「祝辭挨拶弔祭演說」といふ三百十頁の指導書が出たがこの本につくとどんな下手な人でもメキメキと雄辯家になれる、どんな場所や機會にでも直ぐ役に立つ樣に有名な式辭挨拶、祝辭弔祭の草稿を載せてあるので之一冊あれば決して間誤付かず何時も拍手喝采は大請合であるが特價一圓で目下發賣中だから希望者は早速註文されよ同社では代金は着本拂で送付してくれる

相率ゐて時艱克服 信頼せよ軍の實力

事變記念日に當り 東條陸相談話

東條陸相

【東京電話】陸軍では七日支那事變四周年記念日に際し左の如く東條陸相談を發表し、時局まさに重大の折柄國民はよく事態の眞相を洞察し、軍の實際と實力とに信頼、毅然たる態度を持して職域奉公の實をあげんことを望む旨強調した

いまや世界の情勢は混沌としてその推移はかり知るべからざる秋に當り、こゝに支那事變四周年の記念日を迎ふるに至つたことは、まことに感慨無量のものがある、顧みれば事變すでに四年、御稜威のもと將兵諸士の盡忠勇武と銃後國民各位の奉公至誠とにより寡兵よく衆を制し、皇軍の威武は燦として中原に輝き戰史上いまだ多く類を見ない大なる戰果をあげてゐることは讃嘆に堪へないところである

しかしてこの間堅壕天嶮を冒して頑強大敵と戰つてゐる將兵諸士の苦勞に對してはたゞく感激に堪へない、しかもそのうちには護國の華と散り聖戰の礎となられた方も少くないのであつて、この尊き犠牲に對しては深厚なる敬虔の念と衷心より哀悼の意を表すると同時に名譽の戰傷を負ひ、あるひはあたら病魔に呻吟され恢復の一日も速かなることを念じてやまない次第である

惟ふに支那事變は對重慶援助による各種の外敵妨害あるにも拘らず、皇國の企圖する新たなる建設は強靱なるわが武力の推進により着々輝かしき實を結びつゝあるのみならず國民政府また順調なる發展を續け、歩一歩事變解決への道程を辿りつゝあるのである、しかるに歐洲戰爭は獨ソ開戰にともなひ、端なくも全世界への大動亂を醸さんとし、皇國は未曾有の重大時局に直面するに至つた

かくの如き情勢の間に處する皇國としては將に國家總力を擧げ、一大飛躍を行ふべき秋であると信ずる、すなはち國防國家體制を強化し、これが完璧を期するとともに、いよく堅固不退轉の決意と相俟つて不敗の備へを確立し、何時、如何なる情勢の變化にも、さらに大なる國難來るとも毅然とこれに處し、もつて皇運を扶翼し奉ることこそ興亞無二の信條でなければならない

皇軍の軍容は整齊にして團結また鞏固不動である、兵馬倥偬の間、錬成に一日の怠りもなく常に實力の涵養を持しつゝ、一意聖戰目的の完遂に邁進しつゝある、よろしく國民各位は軍の覺悟と實力に信頼され、大いに安んぜられんことを希望する次第である、時局いよく重大を加へる、國民各位もよく事態の眞相を洞察のうへ冷靜にして、しかも毅然たる態度を持し

軍民相携へ皇國の安危を雙肩に擔ふの意氣を發揮せられ、ますく職域奉公の實をあげられんことを切望してやまない、かくして軍はその渾然一致の御協力によりよく時艱を克服突破し得ることを確信する次第である

百年の大計確立

畑派遣軍總司令官談

畑總司令官

【南京六日同盟】畑支那派遣軍總司令官は七日の事變記念日に際し左の談話を發表、事變の長期化にも拘らず、派遣軍全將兵は士氣いよく旺盛、一意任務の達成に邁進しつゝあることを全國民に傳へ、同時に今後も全國民は一致協力聖戰目的の達成に努力すべきことを要望した、なほ右談話は七日午後七時廿分より全國に對し放送される

御稜威のもと聖戰四年にわたる前線銃後一體の健鬪努力によつて東亞新秩序建設がいよく確固不動の礎を築きあげたことは同慶に堪へない、現下世界情勢は武力をとると否とに拘らずすべての國家は大戰爭の渦中にあり、しかも世界新秩序を建設せんとする國家群とこれを阻まんとする國家群とが對立抗爭しつゝある、支那事變もまた必然的にこの世界戰爭の一環たる意義を有し、本事變の歸趨は東亞民族の興亡の分岐點となるのである、從つて事變處理の主動的立場にある皇國の使命はきはめて大であり

私ども派遣軍將兵も、またその責務の重大性を痛感してゐるのである、かくの如き派遣軍將兵に一貫する不動の信念は素より上御一人の御稜威の致すところであることは申すまでもないが、國民の協力一致による支持のたまものでもあり、銃後國民の熱意如何が前線將兵の士氣に及ぼす影響も至大なるは多言を要しない、銃後國民もまたその一言一行が直ちに支那事變に重大なる作用をなしつゝあることを深く認識せられんことを切望する次第である、いまや支那大陸においては皇軍による作戰行動の進展と相俟つて國民政府また健全なる發展をつゞけ

今次 汪主席の日本訪問によつて兩國の親善關係はいよく鞏固を加へ、國民政府はまた今後において急速に發展強化さるべきことが豫想されるのであつて、國民政府の強化は直接に重慶政權の弱化として作用するのである、現下重慶政權の情勢は抗戰力の非常な低下ならびに經濟竭迫の深刻化にともなひ、その抗戰體制は崩壊の危機に瀕しつゝある、しかもなほ東亞保衞の大義を忘れ、敵の第三國の援助に頼つて抗戰を續くるにおいては、われらは、一面あらゆる方策を講じて、これが潰滅をはかり

一面 において國民政府の事變處理方策に從ひ毅然たる態度をもつてこれを推進せしむるの一途あるのみである、事變解決を國際情勢の變轉にのみ期待せんとするが如きは斷じてとらざるところである すなはち今次聖戰はあくまで全國民一致の努力をもつて自主的に處理せらるべきであり、本事變をもつて百年の大計を確立せねばならぬのである

大日本興亞同盟 きのふ嚴肅に結成式

【東京電話】大日本興亞同盟の結成大會は六日午後一時より、日比谷公會堂において關係諸團體代表者三千餘名參集のもとに嚴肅に擧行された

政府側より東條陸相、及川海相、鈴木企畫院總裁、及川興亞院總務長官心得、翼贊會より柳川副總裁、石渡事務總長、永井東亞局長以下關係局部長、加盟團體を代表して林銑十郎、荒木貞夫、本庄繁、菱刈隆、阿部信行、松井石根、高橋三吉の各陸海軍大將、一條實孝公、大藏公望男、兒玉秀雄伯、井田磐楠男、安達謙藏氏、水野錬太郎氏、島牛能久氏、太田耕造氏、山岡萬之助氏など、その他各關係團體代表、來賓として滿洲國、駐中華民國兩大使館出席

定刻大會委員長陸軍少將開式の辭を述べ宮城遙拜、國歌奉唱ののち、柳川副總裁は支那事變四周年に當りたる勅語を奉讀、ついで英靈に感謝、出征將兵の武運長久祈願あつて議事に入り、石渡事務總長開會の挨拶を述べ、水野錬太郎氏座長につき、永井東亞局長より同盟結成に至るまでの經過を報告したるのち、同盟規約をそれく可決、續いて同盟總裁として一致近衞翼贊會總裁を推戴することに決定した、ついで柳川副總裁より總裁告辭を代讀、役員を指名したるのち「誓ひ」ならびに宣言を松井、大藏兩委員の朗讀通り可決して議事全部を終了、ついで東條陸相、及川海相、平沼内相(代讀)松岡外相(代讀)及川興亞院總務長官心得および李、褚兩大使より祝辭を述べ、阿部大將の發聲で聖壽萬歳を三唱し結成大會を終り、引續き馬淵陸軍報道部長、前田海軍報道部長、高瀬中佐の記念講演あつて同五時過ぎ盛會裡に散會した

豆ノート

國債標準發行價格

◇…大藏省では毎年六月末と十二月末に、國債の標準發行價格を發表してゐるが、この標準發行價格とは如何なるものか

◇…本年五月末現在で我が國の内國債額は三百四十億五千百萬圓と遂に内國債のみで三百億圓を突破するに至りこれに外國債を加へると我が國の國債總額は同月末で三百二億八千五百萬圓に上る巨額を示してゐる

◇…かくの如く國債額が巨額に上つたのは今回の支那事變による國債の發行がその主因をなしてゐることはいふまでもないところで試みに昭和十二年以降本年五月末迄の國債發行累計額を見るに二百六億圓といふ膨大なる數字を示し國債總額の約三分の二が僅かにこの四ケ年間に發行されたことになる

◇…しかも國債の發行額は今後と雖も當分急激に減少することは到底期待し得られない そこで問題は、この激増する國債の消化を如何にして圓滑に運ばしめるかと共に既發債の價格を維持して行くことに重點がおかれねばならぬ

◇…最近においては國債の市場價格が發行價格を割るといふ如き現象は見られないが、一度金融市場の變調から國債の發行價格割れが生じたことがあつた、かくの如き事態が生ずれば國債を資産として相當額保有してゐる銀行、信託、保險會社等は、その國債の帳簿價格をそれだけ引下げて行かねばならぬし、假りに國債の値下げが甚しければ、その蒙る損害も甚大となる

◇…そこで大藏省では既發國債の一々について標準發行價格を決めて、たとへ市場價格が發行價格を割つても、帳簿價格はこの標準發行價格でよいといふことにし、國債の値下りによつて生ずることあるべき銀行、信託などの損失を防護することにしたのである、而してこの標準發行價格は何れも大體發行價格と同一となつてゐる

スターリン線突破 赤軍中央部に楔を打つ

【ベルリン特電五日發】ドイツ軍司令部の發表によればドイツ軍は激戰後スターリン線を突破した後ミンスク、スモレンスク中間のソ聯軍陣地モギレフ地點に向つて攻撃を開始した、なほモギレフはドニエプル河沿岸にあり、同河を扼する重要な地點でドイツ軍は目下北部フィンランド戰線において攻撃を續け、同時に南部戰線においては五日スタニスラウを占領、赤軍の中央部に對し楔を打込むに至つた

またドイツ軍は四日ソ聯機八十九機を撃墜または地上爆砕したが、ドイツ機の損失は六機であつた

獨軍リガに達す

【ベルリン特電五日發】獨ソ戰線北部ノルマンスク地區においてドイツ、フィンランド聯合軍は五日ソ聯赤軍の頑強なる抵抗を排しリガに到達した

獨機撃墜 ソ聯情報局發表

【モスコー五日同盟】ソ聯情報局五日發表=

一、四日夜は各戰線とも重大變化なくソ聯軍の配置に移動なし

一、ムルマンスク、カンダラクシヤ方面およびカレリヤ地峽方面のソ聯軍は獨軍と各地において戰鬪繼續中である

一、ボリソフおよびボブルイスク方面ではベレジナ河およびドルート河で夜を徹して激戰、獨軍は右二ケ所による赤軍に對し反復攻撃を加へきたつたが赤軍はその都度撃退兩方面において大損害を與へた

一、タルノポル攻略に失敗せる獨軍はノヴォグラード・ヴォルインスク(タルノポル東北方百八十キロ)に對し大機械化部隊をさしむけ猛攻を加へ來つたが赤軍は四日夜を徹してこれと激戰を交へ、甚大な損害を與へつゝその東方進出を阻止してゐる

一、ベッサラビヤ戰線では有力なる獨歩兵隊は戰車隊と協力して行動をおこし若干の地點によりプルート河を渡河進出せんと試みたが赤軍はこれを撃退した

一、ソ聯空軍は獨軍飛行場および機械化部隊などに對し爆撃を敢行空中戰でも獨機多數を撃墜した

一、概算によればソ聯空軍は四日空中戰で獨機四十三機を撃墜、ソ聯側も廿七機を失つた

舊波蘭領の要衝占領 洪軍猛進撃

【ブダペスト五日同盟】ハンガリー軍司令部發表=ハンガリー軍は退却するソ聯軍を追撃、五日スタニスラウオウおよびコロミヤ(共にルヴォウ、チエルナウチ鐵道沿線にある舊ポーランド南東部要衝)を占領、ドニエストル河に向つて進撃をつゞけつゝある

北支軍の管理工場 けふ第一回返還實施

【北京六日同盟】北支派遣軍管理工場の返還については、昨年三月當時の臨時政府より布告をもつて返還すべき旨を發表して以來北支軍においては愼重にその事務的準備を進めて來たところ、このほどやうやくこれが完了を見たので、七月七日の事變記念日を期し、その意義ある第一次返還を行ふこととなり、六日正午北支軍並びに華北政務委員會より左の如く發表された

昭和十五年三月十八日附臨時政府行政委員會より華北軍管理工場を返還すべき旨布告を發表して以來、日本軍において愼重に返還事務的準備中のところ、最近右準備を完了し、七月七日事變記念日を期しその第一次解除を實施せらるるに至りたるは誠に慶賀に堪へざるところなり、今次返還工場は總計四十に上り、その内譯は鑛業十、紡績八、打包關係六、製粉十五、精鹽一にして民生に直接關係ある工場なり、軍管理工場の返還申請に關しては華北軍管理工場返還申請手續規定が華北政府より公布せらるるにつき右規定に準據し申請すべし、また昨年三月の布告により申請濟みのものも改めて右規定により申請を要す、軍管理工場は事變當時産業保護の目的をもつて、日本軍において一時管理せるものなるも産業復興、日華經濟の緊密提携の見地より、概ね當時の狀況において、またはさらに設備を増強してこれを返還せらるるものなるをもつて返還の趣旨を體して業務の増進と華北經濟建設に協力すべし

聖戰の口火 "盧溝橋" ••2••

交渉更に進展せず 今井武官決死の折衝

事件前夜の空氣

その後事件の發端は一層明かなるものあり、冀察政務委員會より「七月六日南京中央黨部より冀察に宛て北支は平和なりや日本軍の演習に注意すべし」との暗號電報を接手した、とる示唆に富んだ情報を接手したとの情報を聞き、事件はいよく擴大の模様を帶びたるを見たので午前四時半、日本人記者團の參集を求めた

記者の中には既にこの事件を承知し、徹夜酒杯を傾けつゝその成り行きを注視してゐた者もあつた、五時半記者團は武官室に招請つた、時の當番幹事は大毎支局であつたが、定刻の五時には皆集合しなかつたので武官室の庭前にベンチを持ち出し、事件の眞相を傳へると共に、支那側の出様如何では宗擴大するかも知れざる事情を説つた

我方と會見回避

八日は小雨であつた、北平市中の形勢は微妙に緊張である、支那側は溥儀に參拜し、皇國の萬歳を斯つた、折しも小雨がしとく降り出した、恰度その時、西南方の暗澹たる大氣を揺り動かして殷々たる砲聲がとどろき如何にも突然東洋の平和を破るかの如く打出された、一同は事件の急變を想うて曉の蘆溝曉月を凝視したのであつた

の政府要人は會議中とか、西苑に赴いてゐるとか稱して日本側との會見を回避してゐた、既に北寧線は列車の運行を停止した爲日本軍の補給や避難者の運送にも事缺く狀態であつた、そこで外交委員會に北寧線の條約に基づく運行の權利を強調した結果、翌日午後十時臨時列車が漸く入燕し邦人を迎へることが出來た、九日も雨であつた、天津軍の橋本參謀長は豐台の戰鬪を視察して午後八時入燕した、今井武官も面會せんとしてその宿舍扶桑館に自動車をかつたが、戒嚴が嚴重にして市中の通行も出來ない始末にたうとう引返した、十日は漸く晴れた、然も快晴であつた、北平には橋本參謀長、松井機關長、和知、大木參謀が參集してゐた、さうして日本側では

前線で小競合ひ

然し解決條件の中に雙方の意見一致せざるものがあつて、交渉は圓滑に進展せず、局面は徒らに遷延するのみであつた、而して前線では時に小ぜり合ひが行はれてゐた

この夜十時特務機關に記者團を招集したが、戒嚴令下厳にして、集まるもの僅かに三人のみであつた

「四ケ條の協定を決定して從來の行きがかり上から專ら張自忠を交渉相手にした

◇要求事項

一、第二十九軍代表は日本軍に對し遺憾の意を表し將來責任を以て再び斯くの如き事件の惹起を防止することを言明すること

二、當の責任者の處分を行ふこと

三、蘆溝橋附近永定河左岸には支那軍隊を駐屯せしめざること

四、本事件は所謂藍衣社共産黨其の他抗日系各種團體の指導に胚胎するところ多きに鑑み將來之が取締りを徹底すること

右要求の受諾を文書として日本軍に提出せしむ、第四項の具體的事項は説明に留むることを得

右要求受諾後日支兩軍は各原駐地に復歸す(但し蘆溝橋附近は我が要求通りとす)

支那側は兵力集中

斯くして後世歴史家が支那事變史上に特筆大書するであらう七月十一日が訪れた、今井武官は松井大佐、和知中佐、寺田中佐と共に正午頃張允榮邸に張自忠を訪つた、張自忠は前日來大腸カタルを患ひ、冀察病院に入院中であつた、したがつて會見は容易に實現せず、張自忠の言を傳へる者も其の真意を知らせないのであつた、會議一時間に涉るも終にまとまらずして引揚げた、第一線では午後十時頃敵が襲來し、十數名の死傷者を出した、我方の兵力は漸く歩兵部隊を集結し得たに止まり、天津軍より増援の機械化部隊、野戰重砲隊等は道路不良のため遲々として前進するを得ない狀態であつた、敵は之に乘じて永定河左岸に約一ケ聯隊の兵力ある外、西苑駐屯の二ケ旅は八寶山に集結し、その一部は衙門口より長辛店附近に進出して蠢動し、南苑には第三十八師が控へてをり、戰況は極めて險惡たるものがあつた、交渉は斯る重壓の中において有利にしかも急速に進展せしめねばならぬのである、秦德純は午前五時電話にて「責任者の處罰は容認すべきも軍の撤退は絶對に容れる能はず」と

の撤退は絶對に容れる能はず」と日本側は武官一人にて會見した、支那軍は蘆溝橋附近の日本軍が撤退せざる限りにおいては如何にも城下の盟の如き感を與へるので、本交渉の成立見込みつかねば日本軍は自發的に引揚ぐべきを以て支那軍も同時に撤退せしめた、なほ日本軍の行動を容易ならしむるため北寧線の輸送を要求して承諾せしめた、かくして日本軍は自發的に撤退したので、支那側は兎も角當方の要求條件を全的に承諾し

東亞悲劇の危機は瞬時の差を以て阻止された、今井武官は直に折から南苑飛行場へ向はんとする橋本參謀長の後を追ひ、飛行機に乘らんとした參謀長に條約成立を告げその認可を得たのである、時に午後二時であつた

解決條件

一、中國と日本との交戰部隊は地主の誼を以て日本軍に對し遺憾の意を表し、且つ事端惹起の部隊長官を處分し、更に將來責任を以て再び斯の如き不幸なる事件の惹起を防止することを言明す

二、中國軍は日本在豐臺駐屯軍と接近し過ぎ事端を惹起し易きため蘆溝橋城郭に軍を駐めず、保安隊を以てその治安を維持す

三、本事件は所謂藍衣社、共産黨其他抗日系各團體の禍を嫁することに胚胎するところに鑑み將來之が取締りを徹底す

滿蒙開拓こそ 生擴への大動脈

小磯大將の入城談

六月八日日本海を横斷羅津に上陸、約一ケ月間に亘つて滿洲各地の開拓狀況をつぶさに視察した小磯拓務大將は歸京の途次六日午後一時三十五分京城驛着『のぞみ』で入城、篠田城大總長、加藤朝鮮軍參謀長、倉島朝鮮軍報道部長、三橋警務局長ら軍官民多數の出迎へに應へながら直ちに朝鮮神宮を參拜、南總督、中村軍司令官を訪ねそれく挨拶の後宿舍朝鮮ホテルに入つたが、驛頭記者團を引見して大陸開拓の重要性につき大要次のやうな所感を語つた【寫眞=入城の小磯大將】

高度國防國家完成のため滿洲大陸または南洋から豐富な資源を得ることは當然だが、未だ治安の不安定な大陸からこれを求めるのはどうかと問ふ人がある

たゞ運輸上だけから見れば南洋は陸運の十六倍の輸送力を持ち、その意味では大陸より南洋の方が得策かの如くだ、然しながら根本的にいつて日本人は蓄積よりも開發に適してゐることを思へばやはり滿蒙の開拓こそわが生産擴充への動脈だ、滿蒙の曠野を穀倉とする開拓こそ現下克服邁進すべき誠務である

× × ×

三年振りで朝鮮に來たが、現下統制經濟問題では内地も滿洲も朝鮮は恵まれてゐるやうだ、これはひとへに局に當られる方や大衆の努力の賜で、われくはよろしく感激をもつて國に奉ずる覺悟を致さねばならない

なほ大將は七日仁川視察に向ひ、八日午後三時五十分の『あかつき』で一路歸京のはず

山下中將一行 釜山徑由で歸京

【釜山電話】獨伊軍事使節の旅から六ケ月ぶりで歸國した山下中將一行三名は途中天候の關係で急に豫定を變更し五日平壤から急行『ひかり』に乘替へ下關に向つたが定刻より卅五分遲れて六日午前十一時五十五分釜山棧橋着、並行便連絡船德壽丸で東京に向つた

何を訊いても『大阪に着くまでは話さぬぞ』の絶對不可侵の堅陣を布き獨伊を視察して歸後の國民に與へる言葉は？と向を轉じても見たが『それは大いにある』『がそれも話せぬ』と口を噤くして語らなかつた

オランダ政府 華府に移轉か

【ニユーヨーク五日同盟】蘭印國民會議の速記録によればロンドンに亡命中のオランダ政府はワシントンに移轉すべく考慮中なる旨の政府の宣明が記載されてゐる、その理由としてはワシントンは國際政治の中心であり、かつ蘭印防備の能否の鍵はアメリカ政府が握つてゐるといふにある

英石炭の割當實施

【ロンドン五日同盟】炭坑大臣はいよく深刻化した英の石炭飢饉に鑑み石炭その他の加工燃料の割當制を實施一家庭一ケ月の最高消費量を一トンと決定した

安達謙藏氏に頌德碑を贈呈 東亞佛教協和會

【東京支社電話】東亞の和合はまづ佛教からの標語の下に運動を行つてゐる東亞佛教協和會では、和合運動の先覺者である同會の副總裁たる安達謙藏氏に頌德碑を謹呈することになり、六日午前十時から横濱本牧八聖殿内において贈呈除幕式を行つた、除幕式には安達謙藏氏を中心に李元鎔氏等五十餘同胞多數參加し盛會であつた

米系銀行在支兩支店を閉鎖

【ニユーヨーク五日同盟】ナショナルシチー銀行はその北京支店および漢口支店の閉鎖は他支店への合併の形式をもつて行はれ北京支店は天津支店に、漢口支店は香港支店にそれく合併した

日曜氣配

東新は週はじめには十五圓台から二圓四十錢の安値迄あつて週末には三圓八十錢と不振に終つた、獨ソ戰は益々優勢を傳へ樞軸國側が續いて南京政府を承認し歐洲情勢に對する帝國政府の態度も決定したが、依然アメリカの態度が判然としないために容易に氣迷ひを脱し切れず、市場内外の警戒氣分を反映してゐるものがある、その他アメリカの船舶證明制度を傳へられて商船が多少不振したが別に基調を動搖させるほどのこともなく滿業日鐵なども共同證券の有力なる買物がひそんでゐるので一應安定した態度であり、ラサ工曹達なども既に天井圈一段落振合から落着、國際商品相場の反落も相場の時代に影響なかつただけに一向無頓着であつたが又確然とした氣分にはなり切れず人氣は國際情勢展開待ちの不得要領であつた

東新一一三、八〇▲鐘紡一四七、六〇▲大新五四、二〇▲新鐘八四、七〇▲滿業五五、一〇

海の記念日に捧ぐ!
實話海の實話集 (七月二十日)
太平洋波荒き時海の記念日迎へて海國日本のわれ等は祖國の海に目を向けやう!

第一話 血みどろの海戰 海軍大佐 廣瀬彦太
第二話 太平洋の日本人 高橋邦太郎
第三話 輝く海員魂 水門和之助
第四話 海の怪物? 小笠原淳隆

國防讀本 われらの生活訓
【結婚篇】女よ強くあれ 上司小劍
【衣食篇】光ある娘 村岡花子
【勤勞篇】一億の手 糸井謹治
【體育篇】祖先の血 岩塚源也

愛國讀本 この娘たちを見よ
★第一景…西瓜と姉妹 ★第二景…靑春の貯金 ★第三景…感激の貯金

將兵の慰問に!
講談雜誌 8月號發賣!
定價四十錢(送料二錢)
東京・日本橋・本町 博文館發行 振替東京二四〇[illegible]

新傳奇小説 鐵舟とその妻 山手樹一郎
劍・禪一致維新の英傑山岡鐵舟は黎明日本にいかなる功績を殘したか? そのかげには雄々しくも美しき妻英子あり!

花は散れど
赤穗義士物語 笹本寅

傑作中篇時代小説 慶長水滸傳 戸川貞雄
黑谷尼僧記 横溝正史
恐怖の廊下事件 海野十三
幸運一代男 野村無名庵
凱旋舞台 宇井無愁

朝鮮郵船定期
◎仁川より 青島上海への最捷路 仁川出帆毎月
平安丸 一日 十六日

◎京城 興東丸 釜山 七月五日
◎平壤 行 仁川 七月十一日
◎光州 行 七月四日
◎九州 行 櫻島丸 七月九日
◎大連 行 櫻島丸 七月九日
◎阪神 行 七月七日
朝鮮郵船株式會社 京城府南大門通五丁目 電話(2)本局一九五番

大阪商船 臨時出帆
大阪商船京城支店 京城府南大門通二丁目 電話(2)一〇三〇・一〇三三

洋服 裏地 京城府黃金町四丁目一番地 岡田商店
電話賣買は 桂商事へ 本局0081
ミシン 大阪市北區南森町
ナショナル交直兩用擴聲器 三洋堂 京城府本町二丁目
電話賣買は 泉商會 鍾路四街 電本3706

京日案内
料金表(料金は總て前金)
タイピスト 看護婦 小使 賄婦 醫師

雜件 料理 美容 電話 明治町入口 桃商會 電本3322
求賣 大學病院前 貸家 貸間 貸家
特別案内
タイピスト生徒募集 京城府南大門通一丁目七 京城タイピスト養成所
女事務員 タイピスト 募集各一名 鹿島組
求女子事務員 數名 旭硝子株式會社京城出張所
タイピスト募集 京城タイプライター商會
求賣家 貝沼梅子
女事務員募集 明治製菓京城支店
採用 丸善株式會社京城支店
女店員募集 明治製菓賣店

父正七位金琪部儀豫而て病氣療養中の處藥石効なく七月五日午後六時十五分京城府嘉會町十一番地ノ三二號に於て永眠致候間此段御通知に代へ謹告仕候 生前の御厚誼を拜謝し 追て葬儀は十一日午前九時自宅出棺

昭和十六年七月五日

本財團理事長正七位金琪部氏豫て病氣療養中の處藥石効なく昭和十六年七月五日午後六時十五分京城府嘉會町十一番地ノ三二號に於て永眠致候間此段御通知に代へ謹告仕候

昭和十六年七月五日 晋州一新女子教育財團

本社取締役社長正七位金琪部氏豫て病氣療養中の處藥石効なく昭和十六年七月五日午後六時十五分京城府嘉會町十一番地ノ三二號に於て永眠致候間此段御通知に代へ謹告仕候

昭和十六年七月五日 晋州文山 永和興業株式會社

本組合顧問正七位金琪部氏豫て病氣療養中の處藥石効なく昭和十六年七月五日午後六時十五分京城府嘉會町十一番地ノ三二號に於て永眠致候間此段御通知に代へ謹告仕候

昭和十六年七月五日 晋州文山 金部家小作組合

想ひ起す"五年前" けふ輝く事變記念日

あゝ聖戰ここに四周年！四たび巡り來つた輝かしき記念日は盧溝橋の一發に含まれた歴史的意義の重大さを今更に想起させる、既に四年、平和を希ふ東亞大衆の運命を擔つてわれくは斯くも闘ひ斯くも聖戰を生き拔いて來た、使命の深遠なる信念の不拔なるこの一戰の態勢を讃へ再び聖戰の意義に憶ひ還らう、大陸の山野にはなほ完全の砲火が散る、この日二千四百萬の半島には各地でそれぐ盛大な記念行事が行はれるが、京城における催物の主なるものを記すと

午前九時半＝總督府記念式
京城神社祈願祭
午前十時＝朝鮮神宮祈願祭
午前十一時＝國民總力朝鮮聯盟、同京畿道聯盟、同京城府聯盟主催の京城運動場における記念式、その他＝三越の記念展覽會

記念講演と映畫の會

神山隊の眼喜城死守〃彈は増し糧は没り月未だ出でず彈藥つきるも援隊を乞はず……〃悲壯な神山隊の奮戰が當時の部隊長森本少將の勲辭に躍如としてをどれば五千名の聽衆は固唾をのむ國民總力朝鮮聯盟に道、府聯盟主催支那事變四周年記念講演と映畫の會は六日午後七時から京城府民館大講堂で開催、聽衆には婦人、學生が目立つて多く國民儀禮の後川岸聯盟事務總長の開會挨拶についで森本少將は「聖戰四年を顧みて」の題下に當時の追懷を試み、黒木海軍大佐は「支那事變と我が海軍」と題し我が海の護りの鐵壁振りを示し府民に多大の感銘を與へて講演を終了、續いてニュース映畫の上映に意義ある催しを終つた

歴戰の勇士に輝く金鵄

山西作戰に感狀

三部隊長の指揮下數々の功績 盧溝橋以來の郷土兵團

皇風亞細亞に洽く光被して輝く聖戰四周年記念日を迎へるけふ七日、新東亞建設黎明の鐘は鳴りひびき、一億蒼生擧つて新たなる決意のもと國難突破の勝を固めんことを誓ふ、あたかもこの日今次聖戰に皇國の御楯となり大陸の戰線に勇奮死鬪よく戰功を收めた將兵に對し畏き邊りでは戰死せる護國の英靈のみならず、生存者に對し第一回の論功行賞の御沙汰あり、宏大なる聖恩に一億國民は齊しく感泣誓つて皇運の扶翼を期するのである、わけても縁深き我等が郷土兵團が山西の野に樹てた勳を嘉賞あり、第一回の恩賞に浴する光榮は一に部隊のみの榮譽にとゞまらず、愛國半島擧げてこの喜びを頒ち益々奉公に邁進を誓はねばならぬものである

【東京電話】今回の行賞にあづかつた部隊のうち、七田部隊は最初川岸部隊長の指揮下に事變初發當初盧溝橋附近の戰鬪以來、今次事變に參加、昭和十二年七月廿八日には敵廿九軍を擊破して北平を占領、一部は南口に向ひ八月十二日には同地を陷落せしめ、ついで北支平野の殲滅戰に參加、同年九月に涿州、保定を攻略、さらに娘子關附近の戰鬪では敵追擊のため後方連絡もつゞかず食糧彈藥ともに缺乏、山頂からうち下す敵に對し一ケ月にわたつて肉彈また肉彈の壯烈な戰ひに苦鬪をつゞけること約一ケ月、この間部隊を指揮する牛島部隊長は『食もなく山西の風雪し、されど援軍を要せず』との悲壯な報告を行ひながら、しかも急進擊をつゞけ十月には石家莊を攻略、十一月には太原の攻略戰に轉戰、十三年五月の徐州の殲滅戰には山西南部の山地帶に行動し、時には敵有力部隊の包圍をうけながらもよく彈丸、食糧の缺乏に耐へて、約一ケ月にわたつて進擊をつゞけ、つひに運城を陷れた、ついで同部隊は牛島部隊長の指揮下に共産八路軍殲滅戰を展開、頑敵と戰ひながら、臨汾、垣曲、蒲州、芮城をつぎつぎに陷落せしめ、また十四年四月には敵四月攻勢の機先を制してこれを擊破、同年十二月には山西作戰の功によつて感狀を授與された、その後七田部隊長の指揮をうけ、引續き山西各地に轉戰、掃蕩の功績を樹てた

吉住部隊は昭和十三年八月中旬武漢攻略戰を前に揚子江岸九江附近に上陸、たちまち瑞昌西方の敵陣を攻略廬山西麓の敵背後に進出、九月三日馬廻嶺の峠を收めて敵の退路を遮斷して、これを殲滅し、ついで江南山岳地帶に縱深廿數キロにわたつて布陣した敵を擊破、十月八日修水の線に進出して、敵前渡河を敢行、三藻口附近の敵を擊破したのち、敵武漢防衛の主線を突破さらに敗敵を追つて長驅廣州に向ひ十一月十日これを攻略、八旬にわたる長期の困難な部隊の威力を十二分に發揮し、江南作戰のわが軍の中堅としてかずかずの武勲を樹て十四年四月その感狀が上聞に達した光榮の部隊である【寫眞＝輝く我らの郷土部隊長―（上から）川岸、牛島、七田の三將軍】

"たゞ皇恩に感泣"

我らの部隊長 われらの總長 川岸將軍語る

過ぐる四年前盧溝橋の銃聲一發、川岸兵團は第一線に出動するや否や南苑の激戰を皮切りとして良鄕、涿州、保定、石家莊の會戰から娘子關を突破し太原攻略戰、さらに南部、山西作戰ならびに徐州會戰と危險を冒ぐる北支に勇躍進撥した、つひに黄河々畔に達し赫々の武勲を印したのであつたが、その輝けるわれらの兵團長川岸文三郎中將は事變四周年の想ひ出深き記念日に部下とともに生存者として初の輝く論功行賞の光榮に浴したのだ、川岸將軍はいまわれらの總長として國民總力朝鮮聯盟事務總長の要職にあつて、半島には皆と懇ろな深い縁故を結んで總力運動の總指揮に當つてゐる、われらの部隊長、われらの總長川岸さんが輝れの行賞をうけたといふ報を京城府竹添町の自邸にもたらすと「たゞ感激に感泣するのみです」と次のやうに語るのだ

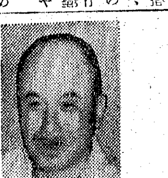
聖戰今なほ半ばにして生存者のために行賞發表せられましたことは恐懼の至りで感激に堪へません興亞の礎石となつた戰歿者に對してこそ行賞に浴せらるべきことが護國の英靈に報ゆる所以と念願致してゐました、しかるに今回私ども戰地に出動した兵團が全軍の數ある部一の中一句に行賞の光榮を賜はつたことは、所屬してをつた將兵、軍屬と共に皇恩に感泣し聖恩上司の御配慮に對し厚く御禮を申上げると共に我が將兵當初から引續き熱誠をもつて新後陣を固めてくれた一般官民の後援に對し深く感謝を表すところであります、時局愈よ重大の折、今回行賞の恩典を蒙りました將兵一同は現在軍務に服する者も郷にある者も皆戰場にある心構へを以て軍人の本分を盡し職域奉公に邁進し滅私皇恩に報ゆるの覺悟を固くすることが絶對に必要であります、なほ行賞發表者中から今後一人も世の指彈を受くる者なきやう自肅自戒を望む次第である

"たゞ感激で一杯"

功五旭五 魚住敏雄中尉

功五級旭五の殊勲甲に輝く魚住敏雄中尉は、語る

天恩の宏大無邊さに甘へる心持です、たゞ有難さに涙がこぼれます、誓つて御奉公の誠を致す覺悟です、越えて來た戰の跡にいまも輝く私の胸を灼きつけるのは十四年夏の沁河渡河架橋作業です對岸に與喰つた優勢な敵軍は迫擊砲、小銃彈を雨霰と注ぐうちを決死の渡橋架設に苦心しました、あたかも降雨明で沁河は矢のやうな流れです、友軍の進擊には我々がどうしてもこの河に橋を架けなければなりません、之といふ材料はほとんどなく生木の皮を剝いで之を撚つて結び縄を作りやつと架橋に成功しました、あの時あとの戰ひのさまは口では申されません、敵軍に對する恨みはこのときほど骨髓にしみたことはありません、別にこれと言ふ手柄もなく本當に何と申したらよいでせう、感激で一ぱいです【寫眞＝魚住中尉】



恩賞の榮譽に輝く家

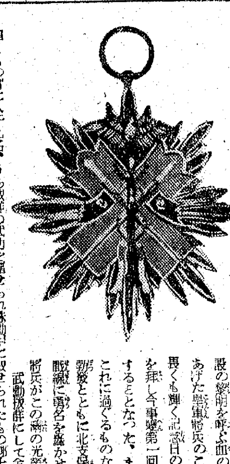
"部下將兵辛苦の賜" 功三級 中山亮輔中佐談

輝れの功三級小綬の恩賞に浴した中山亮輔中佐を訪へば感激を面して―「たゞく恐懼の外はありません、決して私個人の武功ではありません、上長の命に從つての任務であり僚友部下の奮戰に依るものと感謝致します、激しかつた戰ひですか……さうです、いまも瞼のうちに浮んで來るのは十三年の六月から七月へかけての新絳縣馬廻嶺の戰ひでした、徐州會戰での

敗敵 がグンくと黄河を渡河して山西へ反撃して來たのです、敵軍總數ざつと十五六萬と推測されました、そのころ雨季だつた、河川は氾濫し進擊するに泥濘は膝を沒して兵の行軍は極みだつた悩ましや不幸にも後方との連絡は遮斷され糧秣、彈藥の補給も絶たれ、ただ旺盛な攻擊の精神により何れも肉彈を待みに最期の覺悟を決め戰友は水盃を交したものです、全く後には一片の

食料 なく幸ひ麥の穗るのを待つた、未だ早い麥の實ではあつたが敵彈雨飛の中を這つてこの麥を收穫して飯盒で煮つては食べ野菜とてもなく例の野生のアカザを摘んで半月の露命を繋ぎ途に敵の重圍を破つて血路を求め反擊して敵を打ち破りました

世界一のキンパイクレ



百九十七勇士に殊勳甲の恩賞

光榮の郷土部隊將兵

兜をとかず炎熱をおかし泥水啜り草を嚙んで死鬪奮戰、肝がる頑敵を殲滅つて進擊すること幾千里、いまや皇戰踏破の跡は大東亞新秩序建設の黎明を呼ぶ血の軍靴をもつて築きあげた皇軍將兵のこの勳と心勞に對し畏くも輝く記念日の七日聖恩の御沙汰を拜し今事變第一回生存者の行賞に浴するとことなつた、まことに武人の最榮これに過ぐるものなく、わけても事變勃發とともに北支保定攻略戰から山西戰鬪に勇名を轟かせた我等が郷土部隊將兵がこの榮の光榮を擔つた

武勳拔群にして金鵄勳章授賜の榮に輝くもの實に八千九名、うち拔群の武功を輝せられ殊勳甲に敍せられたもの郷土部隊出身功三級中級官司先部隊長以下百九十七名に及び數多郷土部隊將兵が含まれてゐる、武勳隊たる金鵄勳章拜受の殊勳者を訪れ半島に喜びを頒つ―【カット＝功一級金鵄勳章】

"更に御奉公の赤心を發揮"

大東准尉語る

功五級殊光に勳をたゞいられる大東兵三郎准尉は喜びを包んで語る

滿洲河畔の激戰はいまもなほ忘れ得ません、十三年の夏初めだつた、徐州戰に敗れた敵は

怒濤 の如く雪崩れて山西へ殺到した、このとき我々は後方との連絡を絶たれ彈藥食糧もなく廿日間と言ふものは雪も嚙みしめて戰ひ、急な必要に迫られて不敢の固き攻擊心に燃え立つてゐた、私は部隊本部にあつて道路偵察の任を帶び夜を徹して捜索に當りました道河のほとりの山頂で立派な道路のあるのを辿つて偵察するとこの道路は峠を越えると急に下り坂となりそのまゝ行くと溜河へ突き當る

斷崖 で切れてゐることを發見、危く我が軍車の顚落をまぬがれ苦心の揚句迂廻路を發見攻擊に移りました、また滿洲國の重任も果させて頂きました、この上は御奉公の赤心を發揮する決心です

この時の部下將兵の奮鬪と勇敢には全く涙が出ました、無念無想たゞ一念こつて敵擊滅に死傷しました【寫眞＝中山中佐】【寫眞＝大東准尉】

山西の野に勇名

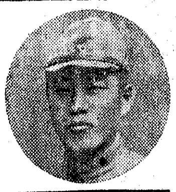
功四に輝く土谷中尉

輝かしい生存者行賞に功四級を下賜された京城府苑町二ノ七八土谷保彦中尉を訪ねいち早く當局發表の光榮の名簿を見せると、氏はひつたくるやうに眼の前に開いてあッ、あッと聲を擧げてゐたが終に堪らなくなつたらしく

"赤鉛筆、赤鉛筆ッ"と絶叫しながら陸軍部隊殊勳甲の氏名の欄にぐい、ぐいとサイドラインを入れ出した"おい、これを見い、これが俺達の部隊長殿だ、この藤原忠大殿ツ、あツ長木がゐるぞツ、おツ上野もゐる……"かつての部下の名を見出すごとに雀躍りし、腕を鳴かす、功四級のこの勇士はいま朝鮮殖産銀行の貴重な行員であり、殖銀時代は人も知る京城野球界の名ピッチャーだつた、事變とともに山海關から山西の山野に轉戰すると前後二年、除隊となるまで戰鬪に臨むこと三回、山西省聞喜縣譚村附近の戰鬪に左足に、手榴彈破傷を受け、二回目は同東陽村附近の戰鬪に左腕貫通銃創、三回目は滿洲嶺某店村附近の戰鬪に左大腿部に銃創を受けて昏倒したが部隊長殞れるや代つて部隊を指揮し轉戰縱橫、山西に鯉登部隊の勇名を永遠に刻んだ猛者だが、戰鬪の經驗を訊くと

"それだけは勘辨してくれ"と戰歿將兵を偲んで瞳を伏せ堅く唇をつぐんでいつかな語らなかつた

"それよりも隊長殿の話をしよう、鯉登少佐殿の勇猛無比な話こそ皆さんに知つてもらひたいな、實に立派な――さうだ、立派なといふ意味が君判るかね、あれは恰度十四年六月の黄河北岸の殲滅戰だつたが、挾擊敵の大部隊と衝突した、眞先に立つて突進して行く部隊長の周圍には敵彈が雨の如く降つて來る、もう的るか、もう的るかと部下は皆はらはらだ、その時の勇壯な姿などからして話せば話すほど嘘になる、戰鬪が話になど出來るものか、遂に左肩に敵彈を受けて野戰病院に行かれたがそれから一週間程した或る夜、戰鬪に疲れてみんなぐつすり寢込んでゐる枕元に不意に"おいおい"と小さな聲で起すものがあるではないか、ふと見ると部隊長だ、部隊長が立つてゐられるではないか"病院から拔けて來たよ"左肩の傷口からは血が湧き出し軍服にしみ通つてゐる、戰爛の灯影にくつきり突はれたその時の隊長の顏は――君判るかね隊長の話ばかりを誇らしげに感激をもつて金鵄勳章の勇士は語つた【寫眞＝土谷中尉】



志願兵に 聖恩洽し

破格の恩賞に感泣

譽れの松原上等兵

輝く論功行賞の一般受賞者の中に功七旭八松原承吉上等兵（創名、白承吉）＝慶南出身＝の名が燦然と光つてゐる われらの陸軍特別志願兵なのだ、故李仁錫上等兵に次いで再び半島から志願兵が輝く榮譽にかゞやく松原上等兵がけふの聖恩に浴するまでには山西戰線に血みどろの奮戰と挺戰の功績が積まれたのだ、故李仁錫上等兵とともに志願兵訓練所を第一回目に修了した松原志願兵は夢にも描いた宿望叶つて山西の戰野に出征、天晴れ皇軍として堂々奮戰、名譽の戰傷を負うて無念の身を〇〇部隊に歸還されたが、再度の第一線での御奉公を願念して待機してゐるのだ

松原上等兵を育てた志願兵訓練所ではこの光榮に海田所長以下教官生徒たちが有難き聖旨に感泣してゐる【寫眞＝松原上等兵】

事變を生き拔く ④

"職域翼贊"の教鞭

・隻腕の勇士 太田繁治氏

「考へる迄もなく戰場に右手を奪はれて私は始めて人間にある崇高な生活を見出しました」

壯烈な赤魔の跳躍する陸の生命線張鼓峰で敵彈に奪はれた右手を戰鬪の意志で補ひ殘された一本の左手に燈火と沸きる血汐を通はせ唯た翼公の赤誠と皇恩への感激を以て聖なる教壇に一生を捧ぐる人……府内滿灘町滿蒙公立國民學校に職域翼贊の教鞭を執る太田繁治氏（三七）である【寫眞＝教壇に立つ太田さん】

昭和十三年七月卅一日張鼓峰の朝靄に戰鬪を呼びさまされた最初に腕に沸きあがつたものは「よし！ どんな困難でも來い！私は打ち破つて行く、私には左手が殘つてゐるぞ」といふ火のやうな決心であつた、其時から氏は初めて困難と苦難を克服して行つた先達の「美しい曙の光」に手を差伸べてゐたのである、烈々たる志を抱へて人生の意義を摑ひとつた氏は教育家として今まで惠まれた心構を吐露する

『思はず興奮する時があります』自分としては努めてゐるつもりですが、凡人の哀しさとでもいひませうか……然し朗かにやつて行かう、といふ氣持で怒る前にも生徒達に何かを得させようと唯た自分としては校長先生以下皆さんの心からの御指導御援助に對しては一途に敬愛を捧げてくれる純心な生徒達の良き指導者として期待に副つて完成し得るかと心配で絶えず省みては鞭打つて居ります』

寡默な氏に代つて傍から校長の猪熊吉太郎先生は輝く戰傷の勇士を學校に迎へた悦びを語るのである

『昨年十月三十日太田さんが當校に見えられた時から"戰地の勇士"先生"は張鼓峰で大手柄を樹てた勇士だ、名譽の先生だといつて全校あげての大悅びでした、先生への生徒の信頼を見る時教育者としてこんな嬉しいことはありませんでした、戰時下第二の皇國民を陶冶する意味から一つの大きい生きた教材として及ぼす影響は測り知れないものがあります』

『作業に重點をおいてゐる當校として、あゝして豫然と團體行動をとつてくれる先生をみても生徒達の胸に與へた太田さんの無言の感化を見逃すわけにはゆきません』

右手のない不自由さを意識する度に遠く戰場に想ひを馳せ、自己反省と共に必死に勞賢の鞭をふる太田さんの血は幾多少國民の精神的糧として永く彼等より高く深く暗つて行くことであらう

大邱地方の豪雨

京釜、大邱 兩線は不通

【釜山電話】六日午前十一時ごろから降り出した豪雨のため大邱を中心として京釜線に大邱線において左の六ケ所に路盤事故が起り十數隻または鐵道沈下のために京釜線に大邱線は不通となり、電話をはじめ通信線にも故障を生じ雨はなほ降りつゞけてゐるなほ豪雨による道内農作物の被害も相當ある見込み

【大邱電話】五日夜來から降り出した豪雨は六日朝に至つて降りやんだが午後一時半ごろから再び降り出し、同二時半ごろからは物凄い雷鳴と共に土砂降りとなり、之がため大邱川堤防は漸く増水危險に瀕したので大邱警察及び警察署は互ひに緊密な連絡のもとに豪防警戒に當つてゐるが府内十ケ所には落雷があつたので一時は電信、電話が不通となつた、なほ午後六時入電の連絡船から上つた乘客は全部釜山泊りとなり混雜を呈してゐる

東村―半夜月間線路九キロ四百メートル浸水▲半夜月―河陽間線路十三キロ浸水及び枕木下のバラス流失▲三省―慶山間線路五百メートル浸水▲瀨岩驛附近一帶は浸水▲大邱―枝川間百卅一キロ八百メートルの切り取り崩壞▲若木―新寧間百六十四キロ四百メートル築堤崩壞（午後四時卅分一應復舊）

名文に迸る愛國心

事變四周年に捧げる記念作文 晴れの全鮮代表決定

國民總力聯盟では事變四周年記念日を迎へて全鮮國民學校、中等學校、女學校の生徒に訴へ記念作文を募り可憐な少年少女の小さき愛國心を動員して去る廿八日各道聯盟において締切り各道選抜作品の國民學校八一、中學校九九、女學校八六、師範學校一五計二八一篇でその後總力聯盟本部で銓衡第一次審査を行ひ各道代表を決定、次いで朝鮮軍司令部で倉茂報道部長を審査委員長とし倉茂學務課長、井川報道部員、西山總力宣傳課長委員となつて慎重審査の結果五日全鮮代表を決定、六日次の如く發表した

軍司令官受賞者 朝鮮代表

一、國民學校代表 『私の最も感激したもの』新城府壯姥嶋南 洪原郡洪原邑南津公立國民學校五年生

一、女學校代表 『最近私の最も感激した話』後藤美子京城第一公立高女四年生【寫眞＝後藤美子さん】

一、中學校代表 『輝かしき皇國の前途と我等の務』中條眞一全州公立中學校五年生

◇國民學校の部（五年代表）仁川公立國民學校今井淑子 ▲佳作 光州中央國民學校矢野勳（六年代表）忠南天安郡稷山公立國民學校大山光照 ▲佳作 咸北明川郡西面三領洞永安公立國民學校 吉津八重子

◇女學校の部（一年代表）淑明高女 金本順 ▲佳作 慶北高女 安原久惠 同 釜山高女 園田惠蘭（二年代表）京城第一高女中村季子 ▲佳作 木浦高女池田トシ 同 京畿高女上原輝子（三年代表）釜山高女福田恭子 ▲佳作 咸南高女楊山純子 同 義州高女丸龍淑子（五年代表）元山高女 島居貞子 ▲佳作 京城第一高女宮田幸 ▲同 京城第一高女 豆生田チヨ、佐藤キヨ子

一、中學校の部（一年代表）公州公立中 木川嘉春 ▲佳作 平壤第三中 金村三秀 同 京畿中 荷本榮一（二年代表）晉州公立中 阿比留光明 ▲佳作 平壤第三中 久禮常邦 同 京城第一中 喜多野昭（三年代表）平壤第一中 松山廣治 ▲佳作 元山中 眞崎安廣 同 平山中 鶴木彬公（四年代表）馬山中 河本永一 ▲佳作 京城東中 岩城三男 同 滿洲第一中 松岡宏成（五年代表）全州南公立中 中條眞一 ▲佳作 水原中 松原吉男 同 大田中 松山英雄

（師範演習科代表）平壤師範二年 中尾春男

話題特急

☆……七・七記念日のけふを飾るに相應しい軍國美談 京城黃金町六丁目の『軍事援護後援所』の洋裁部教室には現在四十餘名の軍人遺族の婦人部隊が通學して"銃後の華"に恥ない眞摯な勉學が續けられてゐる

☆……この中の『護國の母』を含む遺家族九名が中心となつて『七・七記念日に前線勇士を慰めませう』と衆議一決

☆……教師佐久間女史の懇篤の應援もあつて去る四日から二日間、全員誓つて豆の出るほどミシンを踏んで數十枚の慰問袋を作つた『今日は皇軍將兵の勇戰で、地下に眠る子供の靈も喜んで頂けるでせう、それで戰地の勇士を喜ばせることが出來れば――』と遺族が嬉し涙で語つてゐた

今日の天氣

曇時々晴

想起せよ七月七日
聖戰四周年記念展
十五日まで……四階
七日は休みません
八日は休業致します
京城 三越

丸善
モルサップ
乳化養毛液
¥1.55
全國百貨店・著名藥店 化粧品店にあります

Pension mimosas
東寶文劇
TEL 2-3014
ミモザ館
フランソワーズ・ロゼエ主演
ジャック・フェデエ監督
※南佛のさゝやかなホテル、ミモザ館の女主人ルイズと、養子ピエルの"ものがたり"
7月7日事變記念日
燃ゆる大空
20セン均一
日本文化映畫四
黑潮躍る太平洋
次週 罪と罰 東寶
8,9,10, 3日間 30セン

昭和十六年版 臺灣經濟年報刊行會編纂
A5判 一千頁 定價四圓五十錢
臺灣經濟年報
見よ！待望久しき臺灣の現地報告書出づ!!
最新刊 臺灣の政治的經濟は、この十年間に於て、未曾有の發展を遂げた。それは單に現象的な變化でなく、實に質的變化であり、就中その構造的變革である。過程を明かにすることを目的として刊行されたものである。
編輯委員（順不同）
目次
第一部 臺灣經濟概觀
國際日本協會發行 東京市麴町區内幸町 大阪ビル 振替東京二四〇二〇

封切迫る
上海の月
上海全市にわたる決死ロケ 東寶中華映畫の大陸篇
成瀨巳喜男演出
大日方傳 里見藍子 大川平八郎 汪洋
山田五十鈴が嬌艶重慶女間諜！
東寶 若草劇場

和洋建築金物 和洋家具金物
大阪市西區靱町通一丁目
合名會社 吉幸商店
電話新町二二九番

全鮮輪界業者ニ告グ!!
副業トシテ絶好ノ商品ヲ推薦ス 撰擇ニ迷ハズ此ノ機會ヲ利用セラレヨ 特ニ自轉車業者ニハ指導便宜提供ス
全鮮鞄嚢業者ニ告グ!!
大資本ヲ動員シテ全鮮ニ大卸ヲ開始ス 値段御照會ヲ乞フ、必ズ御滿足ヲ確信ス 自轉車製造卸專業二十五年ノ歷史アル弊店ヲ御信賴新設雜貨部ノ御利用ヲ乞フ
ファイバー製鞄 ズック製フトン袋
全鮮大卸總發賣元
株式會社 高居商店雜貨部
京城府黃金町二丁目
振替京城四二二八番

信用一等
みのや呉服店
京城本町二丁目

公示催告
朝鮮電力株式會社

體育

登山の成功、失敗は 天氣次第

山の氣象

◇…登山の成功、失敗は大氣次第である、殊に遭難の大部分は天氣の惡いときに起つてゐるところから見ても、山の氣象を心得てゐることは登山者の重要な資格となるわけだ、しかしもともと氣象は科學の範疇である、大いに必要な知識ではあるが、山の初心者などにはそれを十分こなすだけの力のないのは事實である

◇…では氣象の知識をもたない登山者が山へ行く場合はどうすればよいか、まづラジオの氣象通報を聽いて自分の登らうと思ふ山地方面の天候を聽く、山へ入つたら地元の人に天氣はどうかねと訊く、山に住む人は雲や空や風を見て大體の見當をつけるものだ、また山から下りて來る人に會つたら山の上の方はどうですかと訊いてみる

◇…一番大切なことは、山小屋の主人とか、そこに居合はせた案内人とかに訊いてみることだ、昨年私が穗高で聞いた二つの遭難死亡事故はどちらも山小屋の主人が天氣が惡いからおよしなさいといつたのに、その制止をきかずに出かけた結果だとのことだつた

◇…休暇や何かの都合でどうしても歸らねばならぬやうな人は、あつさり豫定コースをあきらめて山を下りることが一番いゝ、山小屋の主人などは多年の經驗と勘で大體大氣の判斷が出來るやうになつてゐるのだから、おとなしくその指圖に從ふ方が賢明だ、今年駄目なら又來年出直して來ればいゝのだ、半可通の氣象學などを持出してお天氣と取組むことは初心者の愼むべきことだ、とはいへ、山の氣象の知識もあれば、勿論それにこしたことはない、それを簡單に抄錄して見よう

大體の見當は雲で見る

◇…天氣圖がよくわかつて、天候の變化が豫知出來るやうであればこれに越したことはない、最近では天氣圖の見方が、登山知識の一科目となつてゐるくらゐだから、それぞれ文獻をあさるなり、そのみちの人に訊いてよく勉强をしておくやうにするといゝ

◇…ところで天氣圖を讀み、もう當分大丈夫だといつて山へ入つたなら、こんどは雲と風とを見るやうにする、雲のかたちや、その變化、あるひは風の方向などは、天候を豫知するに重要な手懸りになるものである、ではどんな雲がどんな天候の前觸れだらうか、氣象學者の言葉を借りて、天候惡化の徵候と見られるものを左に抄錄してみよう

◇……『雨知らず雲』といふ風雨ある、生糸のやうに細い雲が空に絹毛でひいたやうに青空に出たら警戒をしなければならない、これは低氣壓の進行の前後に現れ、前に來たものは翌る日には惡化になる、この雲をよく覺えておけば颱風雲の豫知には大いに役立つわけだ

◇……雨知らず雲が現れた夕、暈月が出たらもう山をあきらめるより外はない、また鱗雲が出てもいけない、不連續線の徵候で地降りを豫報するものだ

◇…同じ絹毛をひいたやうでも、されど〳〵に空に浮んであれば『雨知らず』である、しかしその塊が大きく渦を卷いてゐる時は『雨知らず』といつて雷になり、二三時間で夕立が來る、笠雲とか吊し雲なども天候惡化の前觸れだ、このやうに山に入つてからの天氣の豫知は雲のかたちによつて大體の見當がつけられる(日本山岳聯盟指導部長小笠原勇八)

梁壓倒的に勝つ

金明錫は引分け (職業拳闘試合)

京城職業拳闘協會主催、金明錫對リットルジャビエル、梁政模對ベビーベルデス各十回戰を中心試合とせる職業拳闘試合は六日午後二時から京城運動場に擧行、金明錫は引分、梁政模はベビー・ベルテスを二回目で簡單に打倒、プロ轉向の第一戰を力強くかざつた

◇十回戰
金明錫(一四・五貫)引分 ジャビエル(一四・五貫)
梁政模(一四・三五貫)打倒 ベルデス(一四・五貫)
二回、二分一七秒
◇八回戰
金剛イサム(引分)朴公在
◇番外試合
林成一(打倒)黃源德
徐光先(按倒)李龍武

◇金明錫は最初から消極的戰法に出て、腰をかがめて低く迫るジャビエルを徒らに敵へこんで、たゞ無駄に回を延ばして行くばかりであつたこのやうな態勢はたしかに十回戰に對する自信の缺さを示したもので得意とする左鈎打も鋭さに缺けて的確な中りがなかつた、かうずると進められる試合は後半から依然追力を出した、ジャビエルの接近戰に金君は微かに押され氣味だつたが、試合はつひに引分けとなつた、何れにせよ、職業舞台に初登場の金君としては炎天下の野試合場に十回戰はちよつと無理のある試合だつた

◇…梁君はたしかにプロへの鹿途をめでたくかざつた、聯戰から亂發される左右直打はベルデスの顏面に一齊集中され、第二回の終りころ左鈎打から間髮をおかず放たれた、右直打の一擊は顏面に見事に決りベルテスはあつ氣なくのされてしまつた、その思ひ切つた積極的な戰法は若い梁君の敢鬪精神を暴露してあまりある

土木、社會勝つ

道廳各課對抗野球第二日目

【春川】道廳各課對抗野球戰第二日目の試合は雨上りの四日午後四時半から成藝台で擧行された 先陣の土木課對保安、經濟課は四時卅分から開始、土木課の強打陣に對し保安、經濟聯合軍は打撃の不振と守備の不堅實から二回表敵に大量二三點を與へてれて四回戰で一五對二の大敗に歸す
引續き社會對高等衞生課戰は高等衞生課の先攻で五時五十分開始、互に打つて白熱的打擊戰を展開したが接戰力鬪の甲斐なく一六對一二で高等衞生課惜敗す

保安	1100	
土木先	13010	15―2
社會	140128A	
衞先	240005 1	

延原(京城)遂に優勝

滿鮮プロゴルフ競技

滿洲ゴルフ聯盟主催の滿鮮プロゴルフ競技は、七月六日午前九時より京城コースにおいて三十六ホールスメダルプレー(アンダーハンデー)にて擧行、滿洲側より中村、内田、井田の强豪の外五名、朝鮮側より延原外二名參加、ファインプレー續出、接戰の後、本年度全日本オープン選手權大會に優勝せる京城俱樂部延原遂に優勝した、成績左の通り

一、延原(京城)一四七(H〇)
二、内田(奉天)一五二(H2)
三、中村(星ケ浦)一五二(H〇)
三、井田(新京)一五三(H2)
三、吉田(撫順)一五三(H2)

軟式庭球大會十三日に延期

六日擧行豫定であつた新進軟式庭球大會は、會場の京城運動場コートが雨後の軟弱甚だしく、試合を中止、十三日(京城運動場)に延期した

軟球都市對抗京城豫選 (第二回戰)

とカリ 3―0 京電運輸部
東鐵俱 10―0 信託
内海 2A―1 日鑛

職業野球戰 (六日)

阪急 100000000―1
阪神 00010005×―6

新中國を背負ふ女警隊の姿 (自轉車でそれ〴〵勤務場所へ急ぐ女警隊)

戰時下・世界の體育

ヒ總統意圖の下

〃戰ふドイツ〃の伸び行く體育…(1) 獨逸

大戰に直面してゐるドイツの體育競技界は、形式こそ多少違つてゐるが平常と變りのない活躍をしてゐる、ある種のものは平時よりも盛んである、それを端的に證するものは、體育指導者聯盟が昨年初めに飛檄した綱領である、その要點を摘錄すると

ドイツの一般國民は一時的であると否とを問はず、試合及び練習が出來さへすれば、個所で競技に親しんでゐる、戰時の各競技選手權大會も活潑に行はれた、陸、海、空軍では出來る限り競技を行つてゐて、今日では競技を考慮の外に置くことは出來ない

國民は戰爭と惡天候を問はずに競技場に出で、想像もつかない位競技の間に體育的國民となつた、これはヒトラー總統の意圖によるものである

戰爭は我々にある障碍を與へはしたが、しかしもつと新しい可能性をも與へた、これから戰爭がどんな形を取るともまたどんなに長引からうとも、體育的には休んでゐてはならない、體育と競技は平時に增して必要となつてゐるのである

戰爭の中へ入つて行つた、が更に體育が生活の習性となつて國民として戰爭から出て來よう、その時こそは戰爭は、我々ののろふべきものでなく、祝福となつてゐるだらう

かくて來たのである

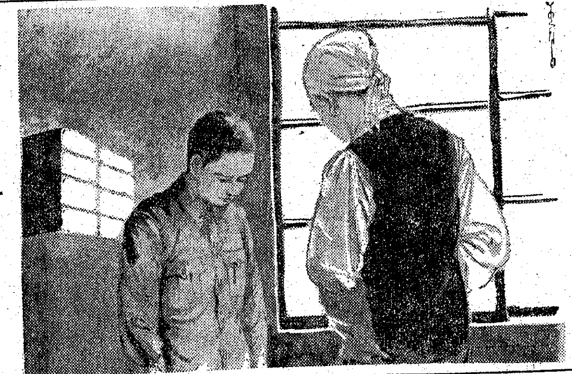
我々はどんな困難が來てもそれに屈するものではない、如何なる困難にも打勝ち、如何なる狀態にあつても我々の仕事を繼續せねばならない、狀態が困難になればなる程益々泰平としてやつて行くべきだ、今や我々は體育國民として戰ふ

といふのである、またより簡明な言葉である『今こそ體育は、平時にも增してドイツが果すべき義務である』とのスローガンが國民に浸透した、そして體育は銃後生活の第一に置かれた、戰線に赴くための鍛錬となつたり、老いを若返らせたり、さては第一の國民をより健康に、より强健なるものたらしめんとの遠大なものも含まれて來た

從つて體育政策は國策として行はれ、非常な熱心の戰闘に亘り、かつ徹底したものとなつてゐる、そこには軍事的のものも多分にあるが、自由な快活な競技が尊ばれ、競技の上に國民の身内に燃ゆるやうな精神、溢れるやうな勢力が發露して、ドイツ戰時體制、戰線の擴大と調和した進軍譜を奏してゐるのである

老春 (143)

川口松太郎(作) 伊勢良夫(畫)



雪 (三)

嫉妬に燃えついた火と同じだつた。すさまじい噂のひろがり方は手のつけやうもなかつた。何處にゐても生徒の目がぢろりぢろりと責めつけて教官たちのさゝやきが學校中到るところに聞えてゐる。

初めは單に『婦人』とあつたのがやがて『母親』と變り『三石』の名が出て『正市の母と副校長』叡ひやうのない醜行さが、たゞではすまぬ形勢に變つた。

『學校に女人禁制を宣告したのは誰だ、黃金ケ原聖地論を主張したのは誰だ』

意地の惡い生徒が叫ぶ。

『副校長自身が禁を犯し、どの面下げて學校に止るか』

『夜間ひそかに婦人と忍び合つたのは誰か』

『責任の所在を明かにしろ』

『責任の所在を明かにしろ』

陰の聲が、やがては陰のまゝですまなくなつた。相手の名が明白になると、

『先生!』

憔悴になつた正市が、木下作業場へ忍んで來た。

『母が學校を訪ねて來たのは本當なんでせうか』

『本當だ』

隆山も隱し切れずに、

『たしかにお母さんは訪ねて來た』

『で、先生がお逢ひ下すつたのですか』

『お目にかゝつた』

『本當なんですね』

『だが』

正市を悲しませたくはなかつた

『みんなが騒ぐやうな、あんな事ではない。お母さんは、君の身の上を案じて、僕を訪ねて來たんだ。面會所で お目にかゝつて山下まで送つて行く途中を、夜間演習中の生徒たちに見つかつた。それがよ』

正市は泣いて言つた口惜しさうに、ボロ〳〵淚を落しながらいふのだ。

學校は僕のだ。お母さんと僕とは、とにあるのだ―さういひたかつた お母さんと僕とは、青年時代に仲の好かつた友達なのだ。本當は、結婚をする筈の二人だつたが、間違つてこんな身の上になつたのだ―さうも云ひたかつたが、然し何にも云へなかつた。

若い正市の心に、無用な痛手を負はしたくなかつたが、正市はもう學校がいやになつてゐた。級友の白眼や、教官たちの疑ひ深い目が、一日中、自分の上へ集つてゐるやうに思へる。

隆山は、口數も少くて仕事に沒頭してゐたが、正市の方は、學課も作業も上の空で、何にも手につかなかつた。

『すみません』

こんな騒ぎになつてゐるんで…』

『何も、君が謝ることはない』

『いえ、母が馬鹿な事をするから先生にも御迷惑がかゝるのです。本當にすみません。先生には申しわけがございません』

『好いよ。氣にしなくつたつて好い』

『でも、みんなは、先生をあんなに云つてゐるし、迷惑をかけた相手が母かと思ふと、僕、居ても立つても居られなくなるんです』

『平氣でゐなさい。少したてば、みんな忘れる』

『いえ、忘れません。先生に惡意を持つてゐる奴が、みんなをそゝのかしてゐるんです。たしかにさうなんです』

『どうして。どうしてそんな事がいへる』

『さもなければ、こんなに意地惡くいふ筈はないんです。誰かしらんが、先生を憎んでゐるんです

七日(月) 事變記念週間 第一放送 (第七日)

朝の部

午前六・〇〇(東)ラジオ體操
六・二〇 ニュース
六・三〇(東)音樂(レコード)
六・四〇(東)朝のことば最初の五分 海軍少將武富邦茂
七・〇〇(東)時報(城)宮城遙拜・天氣見込
七・〇一(東)仕事と共に吹奏樂 東京交響吹奏樂團(指揮)服部逸郎・宮超健太郎
七・二五(東)支那語講座
八・〇〇(東)國民學校放送『全學年』朗讀訓話 教育總監・陸軍大將山田乙三
八・二〇(城)氣象通報
九・四〇(城)支那事變四周年奉告祭實況―朝鮮神宮拜殿より中繼 並に國威宣揚皇軍武運長久祈願
一〇・二〇(東)家庭婦人の時間 支那事變記念日を迎へて 東條勝子
一〇・四〇(東)音樂(レコード)
一一・〇〇(城)支那事變四周年記念式實況―京城運動場より中繼―
一一・五八(東)海ゆかば 海軍軍樂隊(指揮)隊長 内藤清五

晝の部

正午(東)時報(東)默禱(東)感話 今日のお知らせ・天氣見込
午後〇・一〇(東)職場への放送 吹奏樂 海軍軍樂隊(指揮)隊長 内藤清五 行進曲『國民の意氣』『國士を弔ふ歌』大日本傷痍軍人歌(話)司法大臣 柳川平助 軍歌『航行艦隊』軍歌『上海陸戰隊』齊唱付行進曲『ゆるがぬ守り』
〇・三〇 ニュース
一・〇〇(東)事變記念 銃劍道演武大會實況―代々木練兵場より中繼―
二・〇〇(東)事變四周年記念大講演會―日比谷公會堂より中繼―(一)挨拶 東京市長大久保留次郎 (二)講演 陸軍大臣・陸軍中將東條英機、海軍大臣・海軍大將及川古志郎、軍事保護院總裁・陸軍大將 男爵本庄繁
三・〇〇(東)職場への放送 ラジオ體操
三・二〇(城)氣象通報
三・三〇 ニュース・海上氣象(釜山・清津)
三・五〇(東)商工業の時間・職業紹介
四・〇〇(東)國民學校放送『敎師の時間』時局下の敎育者に要望す 東京市敎育局長 皆川治廣
五・〇〇(東)厚生の時間 物語

夜の部

六・〇〇(東)戰線通信 慰問袋のお餅外(解說)金子靜江(朗讀)白石弘
六・二〇(東)シンアン 村岡花子
六・二五 ラジオメモ
六・三〇(城)實戰談(淸津港上陸の迫陣中)(一)白兵戰の體驗を語る 陸軍曹長 那須貞元 (二)險に浮ぶ激戰の跡 陸軍大尉 辻田勝吉
六・三〇 講演(釜山)戰線を偲んで 釜山府軍事講演司令部釜山出張所・陸軍大尉 大森勝巳
六・三〇 講演(平壤)戰場の體驗を語る 陸軍大尉 野中勇
六・三〇 座談會(咸興)銃後漫談 士屋推一 田村清義 田中正春
六・三〇 講演(大邱)事變記念日に際して 大邱府 尹山本實
六・五〇(東)農家の時間
六・五五 公知事項・天氣見込
七・〇〇(東)時報・ニュース
七・一〇(東)政府の時間(錄音)支那派遣軍總司令官・陸軍大將 畑俊六、上海在勤海軍武官・海軍少將 藤田利三郎
七・三〇(東)聖戰四周年樂團總動員大演奏會―明治神宮外苑競技場より中繼―海軍軍樂隊、陸軍軍樂隊、新交響樂團、東京交響樂團・外『第一部』開會・ファンファール吹奏樂・君が代・宮城遙拜・明治神宮遙拜・靖國神社遙拜・陸海將兵慰靈祭並に武運長久祈念(指揮)内藤隊長、開會の辭 東京日日新聞社編輯部主幹 高田元三郎・挨拶 大政翼賛會事務總長 石渡荘太郎『第二部』吹奏樂 管絃曲『攻擊』行進曲『太平洋』大行進曲『大日本』行進曲『國民進軍歌』分列行進曲、行進曲『軍艦』『第三部』交響曲『大陸の黎明』愛國行進曲・聖壽萬歲奉唱、閉會・雨天のため演奏會中止の場合は七・三〇より左記豫備番組中繼)
八・〇〇(城)愛國班常會の時間(演奏會中繼)宮城遙拜・默禱 講話 戰線の將兵に代りて銃後に望む 朝鮮軍參謀長・陸軍少將 高橋坦

◎豫備番組
七・三〇(東)講演 事變を中心とする對日包圍陣 橋本登美三郎
八・〇〇(城)愛國班常會の時間(同前)
八・一五(城)未定
八・四五(東)建設日記『ルミ子の記念日』(ルミコちやん)中村メイコ(父)龍岡晋(母)中村美恵子(沈滿處師)菅野太郎
九・〇〇(東)物語『煙草と兵隊』 徳川夢聲
九・二〇 ニュース(城)氣象通報・天氣見込・曆・番組豫告
一〇・〇〇(東)時報(城)今日のニュース

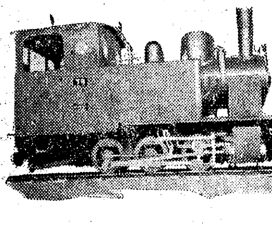
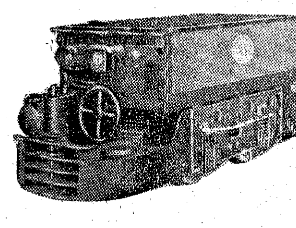
第二放送

午前六・〇〇(東)ラジオ體操(第一放送に依る)
七・〇〇 宮城遙拜(同)
九・三〇 氣象通報
一一・〇〇 支那事變四周年記念式實況(國語)
正午(東)時報・默禱・今日のお知らせ・天氣見込
午後〇・〇五 軍歌(レコード)
〇・一五 速成國語講座 梅園時成
〇・三〇 ニュース
二・〇〇 氣象通報
二・二五 家庭の時間 文藝に現はれた母性愛 洪福柔
三・三〇 ニュース・職業紹介
六・〇〇(東)戰線通信『慰問袋のお餅』金子靜江・外
六・二〇 お話と吹奏樂『無敵皇軍』水原細柳國民學校兒童吹奏樂隊
六・四〇(事變記念週間第七日)
六・四五 常識講話『契約解除方法』 裵廷鉉
七・〇〇(東)時報・ニュース・天氣見込
七・二〇 家庭歌謡指導 朱敬穆
七・四〇 コドモの新聞
八・〇〇 講演『持久戰と實踐生活』 金川聖
八・〇〇 愛國班常會の時間
戰爭文學の夕
八・一五 詩朗讀 林學洙
八・二〇 劇事(保定攻略從軍記) 金陽春
八・二〇 小說(一)戰友 杜勝人 (二)或る看護婦の手記 卜惠淑
九・〇〇 特殊放送
九・〇〇 野談(平壤・咸興・大邱) 金瓚雲
九・二五 大笒獨奏『鳳凰吹』外 朴鍾基
九・四〇 ニュース・氣象通報・ラジオメモ・曆
一〇・〇〇(東)時報・今日のニュース

明日のきゝもの 八日(火)

午前一〇・二〇(城)家庭婦人の時間 家庭料理の榮養化 國民榮養報國朝鮮聯盟理事 荒井賢治
午後〇・〇五(城)合唱 京城放送合唱團女聲部(指揮)大場勇之助
四・〇〇(城)國民學校放送『敎師の時間』藝能科工作低學年取扱の要諦 京城女子師範學校附屬國民學校訓導 原田泰
六・〇〇(東)お伽音樂『浦島太郎』ユーフオニック合唱團
七・四〇(城)大陸文化講座(八)血液型より觀たる東亞民族の移動 京城帝大教授・醫學博士 佐藤武雄
八・一〇(東)浪花節『五人の斥候兵』 梅原秀夫
八・四五(東)童謡歌謡組曲『軍國日本』 歌上艶子・外
午後九・一〇(ハルピンより)獨唱と合唱(獨唱)エルシ ヨブ(合唱)大ロシヤ合唱團(伴奏)ボルガバラライカ合奏團

難病人の喜び
變つた珍らしい効め
難病ニテ色々手ヲ盡シテ見タケレド駄目ダと云フ方ハ是非御相談下サイ。現代醫學ニテ見放サレタ病ニ多年ノ經驗ト秘法ヲ以テ…
松鶴堂漢方醫藥相談部
東京市下谷區上車坂町一(上野驛正面角) 電話根岸三七一〇番 振替東京四八七九七番

兒龍ノ策國
N K S
小型飽和蒸汽機關車
2噸ヨリ20噸マデ各種

12噸飽和蒸汽機關車
御一報次第型錄送呈
製品概目
蒸汽機關車 各噸別
蓄電池機關車 〃
瓦斯倫機關車 〃
軌道用モーターカー 各馬力別
土木用・鑛山用捲揚機 〃
N・K・Sスチームロードローラ 各噸別
N・K・Sスチームトラクター 各種
コンクリートミキサー 各才別
運搬車 各種
各種機關車修理應需

蓄電池機關車
日本機械車輛工業株式會社
京城出張所
京城府元町三丁目九九
電話龍山(4)2387
本社 東京市蒲田區西六郷三丁目五一
電話蒲田 3675・5250・5809
工場所在地 蒲田工場・市川工場 糀谷工場・京城工場

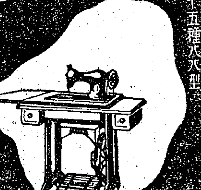
佐野周二歸還記念映畫
松竹大船映畫
元氣で行かうよ
脚本 野田高梧 監督 野村浩將
佐野周二 高峰三枝子 上原謙 田中絹代 佐分利信 桑野通子
新東亞建設前史 特別任務班 日露戰秘史
七日ヨリ
ユナイト特作
來るべき世界
平和か?文明か?再び世界大戰が勃發しないと誰が斷言出來るか?來るべき時代科學萬能の世界を知れ!
レイモンド・マッセイ主演
八日ヨリ 元氣で行かうよ 同時上映
大陸劇場

10日封切

日活多摩川一流の唄と踊り!お待ちかね杉狂兒の十八番!詩情あふるゝ都喜劇!吉村廉が笑ひのメガホンで捲き起す山村騒動!
笑の快速隊
城宝

丹平 タムシ液
無刺戟で殺菌力が強い
少量の塗布でかゆみを快く止め、タダレを乾かし、患部を縮め治りが早く小兒にも安全!
たむし・水虫 皮膚病に
定價 三十五錢 六十錢
丹平商會 全國藥店に有
類似品御注意

正しき月經促進新藥
エムサン
月經不順 月經異常 月經過少 無月經
定價 1.50 2.80 5.00 9.00
一流藥店にあり
内用・副作用なし
代理店 大阪市南勞町 高橋盛大堂

ケイコーミシン
最優秀國産 十五種八八型

京城府京町三
京正ミシン株式會社
電話龍山七五九番 振替京城二九三八一番

東宝映画 浪花館
三日ヨリ上映
長谷川一夫・ロッパの
左彥と光家

京龍館
六月九日より向ふ二ケ月間場内大修理の爲め休館致します

大陸劇場
七月七日事變記念日特選番組
ニユース 12,01 3,15 6,35
文化映畫
特別任務班 12,30 3,47 7,07
元氣で行かうよ 1,34 4,53 8,10

東宝 本町四丁目 城宝
六日ヨリ九日マデ
ニユース 興亞と海軍 12,00 3,15 6,35
英雄峠 12,30 3,45 7,05
ナツカシミ少女バンド 水戸黃門道中記十景 2,20 5,35 8,55
日曜は九時半開場

東寶若草劇場
七月三日ヨリの上映時間表
ニユース 文化映畫 12,00 3,10 6,30
大地に祈る 12,10 3,20 6,55
虞美人草 1,35 4,45 8,20
日曜日ノミ十時三十分ヨリ

明治座
七月七日上映時間表
文化映畫 ニユース 12,01 3,20 6,40
曉の合唱 12,25 3,45 7,05
特別任務班 2,09 5,29 8,49

朝日座
七月二日より お馴染の 志賀廼家淡海大一座
五郎劇 泉虎
北見洋子 高島かほる 近江愛子 環光子
一、トーチカの殉公
二、誓り狂言
二、兄いもと
三、二人のアルバム
四、翳
五、睨み返し
毎夕五時開演

京日文化映画劇場
週末曜日替 日より九日まで
朝鮮ニュース十三號
事變記念日の回想
新支那の出發
ポパイ密林王
キートンの海底王
日本ニュース最新號

東宝文劇
七日
日本ニユース
海外ニユース
燃ゆる大空

日活 喜樂館
一七日一
文化映畫 ニユース 1,10 3,49 6,33
人情ぐるま 1,37 4,16 7,00
淚の捕繩 12,00 3,39 5,18 8,02

本町三 京劇
一日より七日まで
淚の名曲 くろがねの妻
右門捕物帖 張子の虎

和信映画館
四日より十日まで 平日は正午十二時半より 日曜祭日は午前十時分より
1 日本ニユース
2 朝鮮ニユース
3 僕等の勤勞(日本文化映畫)
4 陸軍豫科士官學校(全一卷)
5 潛水艦應答なし(全五卷)
ジョン・ウォールターサンマ主演